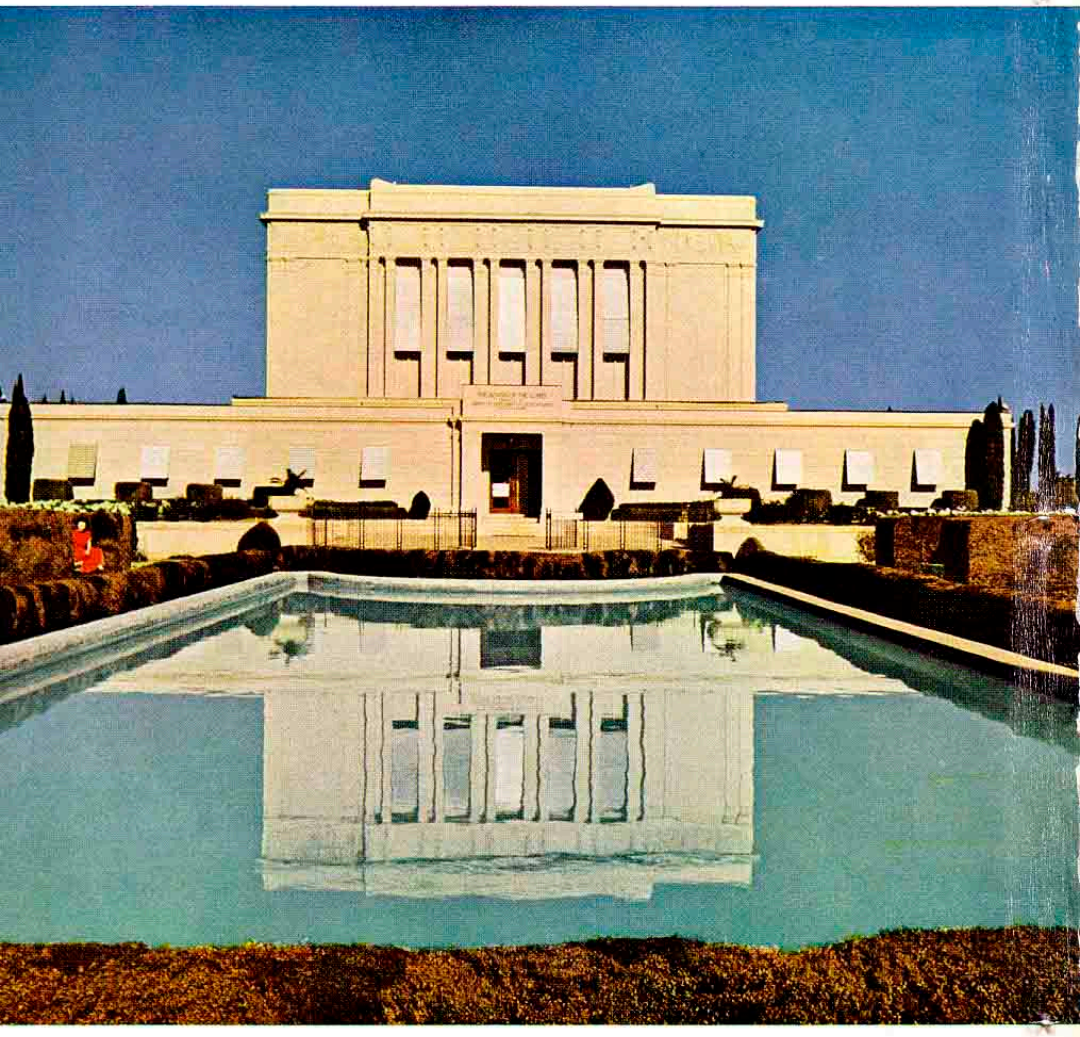
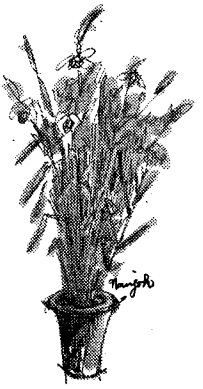
1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）
第6巻 第7号 1962年7月1日 発行

聖徒の道



1962　　7月号

末日聖徒イエス・キリスト教会



The Seito no Michi

July 1962 Volume 6, Number 7

In this Issue

A Prophet's Voice: The Government of the Church.
..... President David O. McKay···387
President's Message: Those who Look back ····· President Paul C. Andrus···390
Your Question: Was the Fall of Adam necessary?
..... President Joseph Fielding Smith···394
Mormon Doctrine (31): The Bible ····· Brother Tatsui Sato···397
Branch News ·····402
Kōfu, Matsumoto, Nagoya, Otaru, Sapporo, Nishinomiya,
Tokyo West, Abeno.
Special Articles: ·····404
A Visit to Tokyo North Branch ····· Brother Masao Watabe
Condolenses to the late Brother Setsuo Kawahara
..... Sister Toshi Suzuki
On the Door and Wall of Human Mind
..... Brother Katsutoshi Takahashi
What we can do in Youth ····· Brother Masashi Yanagita
To the Investigators·····(To my dear Shiro chan)
..... Sister Mutsuko Tamada
Genealogy: Recording of one's Name ····· Brother Masao Watabe···420
Church Articles ·····421
Hymn Practice (for August)
A Letter from the Relief Society Presidency
Sunday School Guide for S. S. Children (for August)
Sunday School Guide (for August)
Branch Teaching Lesson (for July)
MIA Leader (for August)
Essentials in Church History (31) ····· President Joseph Fielding Smith···438
Mission Headquarter News ·····442
English Conversation Text ·····445
Japanese Poetry ·····448

「聖徒の道」7月号

目　次

予言者のことば…教会の管理制度……大管長　デビド・O・マッケイ…387
伝道部長メッセージ…うしろを見る者……ポール・C・アンドラス…390
質疑応答…アダムの堕落は必要であったか
……ジョセフ・フィールディング・スミス長老…394
モルモンの教義(31)…「聖書」……佐藤龍猪…397
支部だより…甲府、松本、名古屋、小樽、札幌、西ノ宮、東京西、阿倍野……402
北支部訪問記……渡部正雄…404
天に召された河原節夫兄弟……鈴木明…413
人の心の扉とその壁について……高橋勝俊…415
若いうちにすること……柳田征史…418
求道者のみなさんへ…「しろちゃんへ」……玉田睦子…419
系図…姓名の記録……渡部正雄…420
練習の讃美歌……421
扶助協会会長会より……422
子供の日曜学校ガイド……(八月用)……423
日曜学校ガイド……(八月用)……428
ブランチ・ティーチング・レッスン……432
MIAリーダー……(八月用)……433
末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋(31)
……ジョセフ・フィールディング・スミス長老…438
伝道本部だより……442
EIGO KAIWA TEKISUTO……445
文　芸……448

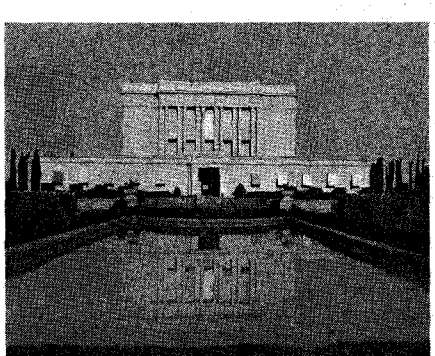
神殿を訪ねて ⑦

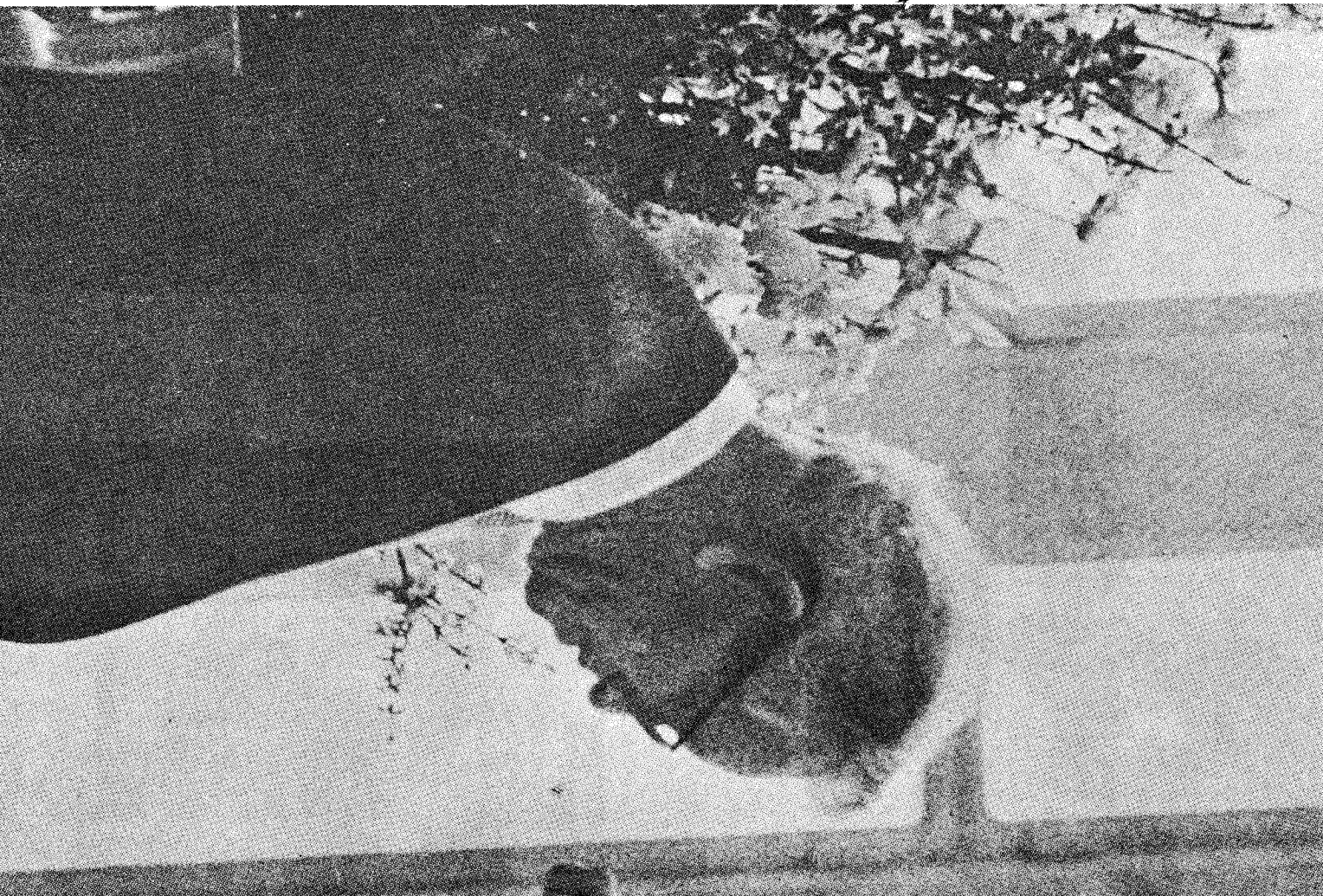
アリゾナ神殿

一九二七年十月二十三日献堂

一八七八年、アリゾナ州フェニックスから十六マイルはなれたメサに開拓者の一行は、その一団のための基礎をおいた。そしてそのころの教会の会員たちの大部分はやはり開拓者であったのである。それらの人たちに神殿を建築するための労働奉仕の機会があたえられた。

建築計画は早くから進められたにかかわらず、世界大戦のために数年おくれた。





予言者のことば

教会の管理制度

大管長　デビド・O・マッケイ

われわれは当教会の管理制度についてたびたび質問を受ける。次はそれに対する一つの答えである。

末日聖徒イエス・キリスト教会の制度を注意深く分析するならば、そこに強力な中央統治形態のもつあらゆる力と、民主主義のもつあらゆる美徳と、民主主義を守るに必要なあらゆるものとが具体的にあらわれていることがはっきりするにちがいない。

第一に、わが教会の組織には神権の権能があるが、それは「祭司売教」の悪徳をいささかも含まず、福音の律法に忠実な神権者は誰でもみな会長会の一人となる資格がある。

第二に、わが教会の組織には何事にかぎらず適用される教育制度、安全弁であり真の民主主義の中心であり力である教育制度がある。

第三に、わが教会の組織には万人にひとしく正義と「同等の特権」とを与える、富める人々にも貧しい人々にも適用される律法制度がある。

第四に、わが教会組織では能率と進歩が促進されるように教会に関する配置ができている。能率と進歩が促進されるのは、中央以外の各集団が各々その仕事に専念していながら、しかも会員にとって有用であり有益であるとわかった手つずきの様式はみな、全部の集団のために直ちに採用することができるよう各々が中央管理組織と密接に結びついているからである。

全く、能率と進歩の促進という立場から見れば、末日聖徒イエス・キリスト教会は今日世界の国民が求めているような管理制度をもっているのである。

わずか二十四才の青年、しかも当時の社会制度ばかりでなくどの時代の社会制度についても無学であった二十四才の青年が、わが教会のためにこのような管理制度をつくることができたのはまことに大したことではないか。

ジョセフ・スミス自身、彼は回復された教会組織の働らきをあらたに示すよう訓練を受けた神の予言者であると言ったが、これが以上の事実に対する答えである。

「うしろを見る者」

ポール・C・アンドラス

イエスは言われた「手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくない者である」。

ルカ伝九〇六十二

今から百五十年余り前、千八百四十六年から千八百四十七年にかけての冬の間中、ブリガム・ヤングと約一万五千人の教会員が現在のネブラスカ州フロレンスの近郊にあるミズーリ川の岸に野営をしていました。この人々はこれより一年前に、彼らの建てた美しい町イリノイ州のノーヴーから、乱暴な暴徒に追われてここへ移って来たのでした。

この何年も前から、教会員たちはみな暴徒にひどい迫害を受けていましたが、その迫害は不正であり何ら充分な理由もないのに極端にはげしいものでした。教会員たちはあざけりの的になったばかりでなく、うち叩かれ、タールを塗って鳥の羽をつけられ、財産をそこなわれ破壊され盗まれ、その上に教会の操正しい婦人たちは乱暴され、罪のない男も女も子供たちも無慈悲に殺害されました。なぜそうされたのですか。この人々はモルモンだったからです。

この人々は自ら大きなぎせいを払って教会員になりました。この人々は教会の宣教師たちがまことの福音が回復されたという知らせをもってきたとき、それまでアメリカ合衆国の東部や英国諸島にあった安楽な家庭に住み繁栄を楽しんでいたのに、その仕事、その財産、その友人をすて、多くの場合両親や兄弟姉妹とわかれてまでこの教会へ入ってアメリカに集ったのでした。

この善良な人々は最初教会に入ったときから大きなぎせいを払い、ひじょうに苦しい困難と迫害とを多くたえ忍んできました。予言者ジョセフ・スミスとその兄のハイラムの二人は、実に暴徒のた

めに銃殺されてしまいました。暴徒たちが迫害をつずけ、ミズーリ川の水も凍る極寒の最中、聖徒たちをノーヴーから追い出してやまなかったので、聖徒たちは氷の上をわたって対岸へ移ったのでした。

この人々はそれから、まだアメリカ・インディヤンが住家にしていた荒漠たる原野を、大きな困難に逢いながら、たがいに助け合い不充分な食料をわけ合いながら旅をして行きました。

このような困難な旅をしている最中に、アメリカ合衆国陸軍はカリフォルニヤに起った戦いに向けるため五百人の有能な男子を一行の中から取りました。このような事態になったので、聖徒たちが春のうちにロッキー山脈へ向って旅をするに必要な準備をととのえることができるよう、ブリガム・ヤングはミズーリ川の岸に野営をすることにきめたのでした。しかし、適当な食料が欠けていたために「カイ血病」が発生し、そのほかの病気も出てきて野営の人々をなやましました。またきびしい寒さのために死ぬ人もあってこの「冬季野営地」では六百人の教会員が亡くなりました。

これまでにこのような辛苦をなめつくし、現在困苦と欠乏にたえながら、これからさき蛮人と野獣の住む荒野を横切って千マイルをこえる旅路を「ホロ馬車」と牛車で行かなくてはならない現実に直面しながら、なぜこの人々は見かぎってしまわなかったのですか。

この人々のしなくてはならないのは、教会をすてて、東部アメリカの安楽な生活とかっての古い生き方へもどることだけでした。それなのになぜもどらなかったのですか。それはこの人々の心の中に、神は生きたまい、この教会こそ現在地上にある神のまことの教会であるという確信があったので、教会をみすてなかったのであります。この人々は、この世の生活で本当の喜びを得るただ一つの道と、次の世に於て救いを得るただ一つの道は、いつまでも教会に留まることであることをはっきりと知っていました。それでこの人々は、教会を離れずに迫害と艱難を喜んでたえ忍んだのであります。

このような状態の最中に、ブリガム・ヤング大管長は「教義と聖約」の第百三十六章に誌してある啓示を主なる神から受けました。

私は皆さまが一人のこらず、この啓示が下った時の事情を思い起しながら、第百三十六章の全文を読むようにおすすめします。私はまた皆さまがとくに第四、十七、三十、三十一の各節に注意をして読んでいただきたいと思っています。それはすなわち、

(四)「而してわれらの誓約はかくの如し。すなわちわれら、ことごとく主の法令を履み行うべし。

(十七)「行きて、わが汝らに命じたるところの如くせよ。汝らの敵を怖るるなかれ。彼らは、わが業を止むる力なければなり。

(卅)「汝の敵を怖るるなかれ。彼らはわが掌中にありて、われわが思いのままに為せばなり。

(卅一)「わが民は、すべてのことに試煉を受けざるべからず。かくして彼らはわが与えんとして持てる光栄、すなわちシオンの光栄を受くるために準備せらる。而して、およそ懲しめを堪え忍ばざる者はわが王国に適しからず」という聖句であります。

以上の聖句の中で主なる神は、その聖徒が彼らの敵を怖れること

なく教会の教えに従えと言っておいでになります。教会の敵は主の御手の中にある、しかし神の民は試煉を受けなくてはならない、迫害と艱難に直面してその忠誠を変える者は神の国にふさわしくないと主ははっきりと言っておいでになります。

この勧告は今から百十五年以上前に「冬季野営地」に在った教会員をなぐさめ信仰を強めるために主なる神がお与えになったのでありますが、これは現代の教会員の一人一人にも全くあてはまる勧告であります。

もしも、どの教会員であっても、迫害と艱難に直面したとき教会を見すてるならその人は神の国にふさわしくありません。しかし、艱難と迫害に逢っても、かわることなく教会に忠実である人々は「永遠の生命」を受けるにちがいありません。

千九百六十二年六月二日、東京西支部の会員である勝又二郎兄弟は、東京都下日野町の病院で腎臓病のために亡くなりました。勝又兄弟は何年もこの病のために悩み、一年以上も病院生活をしたあげくに亡くなったのであります。それで、もちろん妻子の生活もひじょうに困難となり、それはまた勝又兄弟自身の心配を増したのでありました。

勝又兄弟がこの試煉を受けている最中に、仏教の或る教派の会員たちの群が勝又兄弟の家族を家庭に訪問し始め、また勝又兄弟に会うために病院へやって来はじめました。この人々は勝又兄弟に向って、あなたが病に苦しんでいるのは間違った教会に入っているからであるという考えをくり返し告げ、兄弟と妻子が一しょにモルモン教会をやめて自分たちの教会へ入りなさいと勧めつずけました。

或る日これらの人々の一団が重態に陥いっている勝又兄弟の側へやってきて、あなたはモルモン教会をやめて私たちの教会へ入りなさいとまたすすめました。すると勝又兄弟は真の末日聖徒の信仰によって、この人たちに一つの答えをしました。

これこそ日本に於けるわが教会の歴史にのこる言葉であり、また教会の会員一人のこらずの合言葉になるべき言葉であります。勝又兄弟は彼の保持する聖なる神権の力によって「あなたがたの教会へ入って健康になるよりは、モルモン教会の会員として死ぬ方がいいです」と言いました。それからあまり長くたたないうちに勝又兄弟は本当に亡くなりましたが、彼は艱難と迫害とをふみこえて真に忠実な末日聖徒としてその一生を終ったのであります。勝又兄弟こそ神の国にふさわしい者であるにちがいありません。

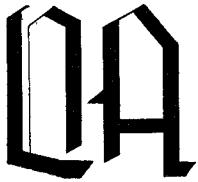
私たちがモルモンの開拓者の記念祭を行うこの七月中、私たち一人一人は開拓者たちのはらったぎせいと、堪え忍んだ艱難と、教会を離れなかったために受けた迫害とをまたあらたによくよく考えてみようではありませんか。そして、今から百年前のモルモンの開拓者と同じように、また私たちの時代の勝又二郎兄弟と同じように艱難と迫害に直面してもなおしっかり教会について離れないようにしようではありませんか。私たち一人一人が神の国にふさわしい者となりましょう。

イエスは言われた「手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくない者である」。　ルカ伝九〇六十二

アンドラス伝道部長は輝やかしい業蹟をわが国にのこして来る七月十九日（午後十時）羽田空港発、家族を同伴ハワイに帰られることになりました。同伝道部長の謝恩歓送会は七月十日（午後六時から）東京虎の門日消ホール（消防会館）で催おされますから多数の方の来会を希望いたします。

ダワエン・エヌ・アンダーセン長老は、アンドラス伝道部長の後任として来る七月十二日に来日される予定であります。同長老は第二代伝道部長マース長老の時副伝道部長として補佐をされました。

質疑応答



解答者　ジョセフ・フィールディング・スミス長老

「アダムの堕落は必要であったか」

質問。

「私たちがアダムの堕落について論じているうちに次のような疑問が起りました。

「神がアダムとイヴにお与えになった第一の命令は、生めよふえよというのであり第二の命令は善悪を知る木の実を食べてはならない、それを取って食べるときっと死ぬ、というのでありました。

議論の結果、生めよふえよという命令と、善悪を知る木の実を食べてはならないという命令とは互いに矛盾している。それでアダムとイヴは（生めよふえよという命令に従うために）善悪を知る木の実を食べてはならないという命令にそむいてそのために死なねばならなかった、ということになりました。

「また、アダムとイヴが堕落さえしなかったなら、私たちはみな罪のない状態のままで居れたものに（なぜ堕落したのか）という考えも発表されました。

「これについてはっきりした説明をしていただきたいと思います。

「たしかに、主なる神さまは救いの計画がだめになるのをお許しにならないにちがいありません。

解答。

もしもわれわれが、創世記にあらわれた通りの堕落の記事をもっぱら頼りにしているならば、まちがった解釈をしてひじょうに誤った結論にたっすることであろう。聖書がわれわれの手にわたるまでには多くの飜訳を経てきて居り、しかも聖書の原記録は誰にも知られていない。古代の記録を写し、とったり、霊感を受けない人々が飜訳をしたときに、多くの誤りが古代の書き物に入りこんだ。モルモン経にはこのことがはっきり言ってある。このように多くの誤りがあるために、聖書の註釈をする人たちはアダムとイヴが父なる神がもともとおたてになった計画を水の泡にしてしまったと言い、善悪を知る木の実を食べたことを「人類の恥ずべき堕落」であると言っている。それであるから、もしもアダムとイヴがこの木の実を食べなかったなら、アダムとイ

ヴならびにその子孫は、多くの世代を経てひじょうに多くの人が受けるようになっている試煉や誘惑に逢うことなく完全な平和と幸福を楽しんでこの地球上に住み、死ぬことがなかったであろうと一般に考えられている。

有りのままの事実は、モルモン経や予言者ジョセフ・スミスに考えられた啓示の中に説き明してある通り、「堕落」は救いの計画にとって欠くことのできない部分であった。それであるから、アダムとイヴは神の御意向に従ってその通りを行ったのである。もしも聖書の原記録があるならば、その中に「堕落」の目的がはっきりと述べてあり「堕落」の必要が説き明してあるのを見るであろう。ところで、予言者ジョセフ・スミスに啓示された「高価なる真珠」の「モーセの書」の中には事実このことが知らされている。すなわち、

「われ主なる神、その人に命じて言いけるは、この園のすべての樹よりは汝の意のままに食うことを許さる。

「されど善悪を知るの樹よりは汝食うべからず。然はあれども、食うと食わざるとは汝に任す、そは汝に与えられたればなり。されど、わが汝に禁じたるを忘るな。汝これを食う日には必らず死ぬべければなり」(「高価なる真珠、モーセの書」三〇十六—十七参照)。

われわれはこの聖句から、アダムは、もしも善悪を知る木の実を取って食べたなら死ぬという罰を受けることを知りつつ、二つのうち一つを選ぶ特権を与えられていたことがわかる。われわれはまたもしもイヴがあの木の実を取って食べなかったなら、アダムも食べなかったであろうと考えることができる。イヴがあの木の実を食べたときに、アダムは自分もあの木の実を食べなければならない、もし食べないなら自分とイヴとは永遠に別れてしまうということを本当に覚った(あの木の実を食べたことによって、イヴの体は不死不滅の体から死なねばならぬ体に変ってしまったからである)。それであるから、アダムはイヴのした通りあの木の実を取って食べるよりほかに方法がなかったのである。

われわれはまた聖典の中にイエスは「創世の前より殺されし子羊」(欽定訳聖書「英文」ヨハネ伝十三〇八参照)と言ってあるのを知っている。その意味はすなわち、われらの救い主イエスは創世の前から選ばれてこの世に来りたまい、アダムの「堕落」によって死なねばならぬ者となった人類とあらゆる生き物とを「贖う」ためのぎせいになりたもうたというのである。

主なる神がアダムに向って、あの木の実を食べてはならないと仰せになったわけが正に何であるかは聖書を読んでもはっきりしていない。しかし、「高価なる真珠」の「モーセの書」にしるしてある原文ではこれがきわめて明瞭になっている。主なる神がアダムに仰せになったのは、もしもアダムが不死不滅の体をもったままでエデンの園にいつまでも居たければ善悪を知る木の実を取って食べてはならない。しかし、その木の実を取って食べて死ぬべき体になりたいなら汝の食うに任せるというのである。

それであるから、これは本当の意味で神の命令にそむいたというのではない。アダムは賢い決定を行った、事実自分のできる唯一つの賢い決定を実行したのであった。

人間をこの地球上に置いて、死ぬべき身をもった者の受けるいろいろな状態に逢わせ、モルモン経の中で説き明してある通り、彼とその子孫に、死ぬべき身をもった者が受けるあらゆる状態に逢う「こころみの世」を過ごさせることは最初からの「救いの計画」であった。

人間が神の前からしめ出されて、死ぬべき身をもった者の経験するあらゆる移り変りと肉の誘惑と試みとを受け、かくして試煉と誘惑を受ける場に置かれ経験をつんで、パウロの言の通り肉の試煉と艱難とをふみこえることによって聖められる「死ぬべき身をもった時期」を経ることは「救いの計画」の一部であった。

この「人世」は人間の存在から見ればきわめて短い間にすぎない。しかし人間が試煉を受けて、（比喩的に言えば火の中に置かれてためされ）自分が金であるか鉛であるか、「神の王国」に昇る資格があるか「神の王国」以外のところへ行かねばならぬかどうかを知るために試験を受けるのはこの「人世」にほかならぬから、それは「神の王国」へ行くかほかの所へ行くか紙一重のきわどい存在である。

予言者リーハイは、その息子のヤコブに訓戒を与えるに当って以上のことをきわめて明らかにし、

「さてごらん、もしもアダムが罪を犯さなかったならば、彼は堕落をせずにそのままエデンの園にいたであろう。そして創造された万物は造られた後の状態そのままに続いてあったに違いなく、また必ずそのまま永久に続いて終りがなかったであろう。

「またアダムとイヴは子供をもうけることもなかったであろうし、それから不幸を知らないから喜びもなく、罪を知らないから善もなさず、そのまま罪がない状態に留ったであろう。

「しかしながらごらん、万物は万物を知る者の全智によって成った。

「アダムが堕落したのは人類を生ずるためであり、人類が現世に在るのは幸福を得んためである。

「そして時が満ちると、人間の始祖の堕落の結果から人間を贖うためにメシヤが来りたもう。人間たちはその始祖の堕落の結果から贖われるから、すでに永久に自由となって善悪をわきまえ、ただ大いなる終りの日に、神の下したもうた命令に従って律法が定める罰を受けるほかには何事も自分の心のままに行いほかから強いられることはないと言った」。（モルモン経、ニーファイ第二書二〇二十二―二十六参照）

また母なるイヴは、堕落について最も明瞭に次のように言っている。

「もしわれら罪を犯さざりせば、われら子孫を得ざりしならん。また善悪の区別も知らず、われらの贖わるる喜びも知らず、すべて従順なる者に神の賜わる永遠の生命も知らざりしならん」と（「高価なる真珠」モーセの書五〇十一参照）。

（インプルーヴメント・エラ誌、一九六二年四月号）

モルモンの教義（三十一）

「聖書」

「われらは、正確に飜訳されたる限り、聖書は神の御言葉なりと信ず」

末日聖徒イエス・キリスト教会
信仰箇条、第八条

佐藤龍猪

一、最要の標準聖典。（The foremost of the standard works）。

末日聖徒イエス・キリスト教会は聖書、モルモン経、教義と聖約、高価なる真珠の四部の標準聖典をもっているが（「信仰箇条の研究」九頁参照）、聖書を以てその標準聖典の中で第一のものであり、教会の信仰および教義の指導書中最も重要な書であると信じている（「信仰箇条の研究」三一六頁参照）。

聖書は霊感によって書かれた書物であって、主なる神が神の予言者たちにお伝えになった言葉がのって居り、神の予言者たちは聖霊に感じてその言葉を語りまた書き誌した（ペテロ後書一〇二十―二十一、「救いの教義」第三巻一八四頁参照）。

末日聖徒イエス・キリスト教会の創立者であるジョセフ・スミスは、人から「あなたがたは聖書を信ずるか」と問われたときに「私たちは天下に於て聖書を（真に）信ずる唯一の民である」と答えている（「予言者ジョセフ・スミスの教え」一一九頁参照）。

末日聖徒は聖書の記録が拠りどころの正しい真正なものであることに関し、今日のキリスト教信仰のもとになっている歴史上その他の資料をほかの教派の人々と同じように受け入れ、しかも聖書を最も忠実に解釈している点に於ておそらくどの教派にも劣っていない（「信仰箇条の研究」三一六頁参照）。

末日聖徒は旧約聖書の中にある律法の書（五）、歴史の書（十二）、詩の篇（五）、予言者の書（十七）計三十九の書と、新約聖書の中にある歴史の書（四福音書と使徒行伝）、教訓の書（各種の書簡二十一）、予言者の書（黙示録）計二十七の書、総計六十六の書を正しい信仰と正しい生活の指導書すなわち正経（カノン）として認め、聖書外典（アポクリファ）はこれを正経（カノン）の中に入れていない（「信仰箇条の研究」三二四―三三一頁、「教義と聖約」第九十一章参照）。

二、正確に飜訳された限り。

・現在の聖書がわれわれの手にわたるまでには多くの飜訳を経てきて居り、しかも聖書の原記録は誰にも知られていない。従って人間の無能力の結果起る飜訳の誤りや、本文からの写しちがいなどの誤りが現在の聖書に含ま

れていることは聖書学者たちが一般に認めているところである（「信仰箇条の研究」三一七頁参照）。

末日聖徒は、聖書の原記録は人間に下さった神の言葉であると信じているが、これらの記録に後世編集者の手ごころが加えられて、多くの貴い記事が抜きとられたことを知っている（モルモン経、ニーファイ第一書十三〇二十四―二十九参照）。

末日聖徒は、現在の聖書にこのようなところがありまた誤訳や写しまちがいなどがあっても、原記録が正確に飜訳されているかぎりその飜訳は原記録と同様に権威があるものと信じている（「信仰箇条の研究」三一七頁、「信仰箇条第八条」参照）。

そして、紀元千六百十一年に英国のジェームス一世の命を受けて四十七人の学者がヘブライ語とギリシャ語の両方から訳した旧新約聖書、すなわち欽定訳聖書（英語）を、これまでに於ける最上の飜訳書と認め、これを標準の聖書として用いている（「救いの教義」第三巻一九一頁参照）。

「註」日本語の聖書はこの欽定訳聖書（英語）から飜訳したものではない。

三、聖書は正経（カノン）として完成されていない。

聖書の原記録が飜訳されてわれわれの手に伝わるまでには飜訳のまちがいや写しちがいなどがあった上に、「始めユダヤ人から出てきた時には、その中にある十二使徒が神の子羊にある真理によって証をした主の福音が誰にもわかるままにのっていた」、「しかしこれらが子羊の十二使徒の手によってユダヤ人から異邦人に伝わってから」、「誰にもわかる非常に貴い多くの部分」が子羊の福音から取り去られ、また主のなしたもうた多くの誓約が取り去られてしまった（モルモン経、ニーファイ第一書十三〇二十四―二十六参照）。

従って「聖経として聖書はすでに完成されている。将来に対する神の導きがどんなに必要であっても、神はもはや人類に与えるべき勧告をみな言っておしまいになった。それであるから人類は聖書にあらわれている古代にたまわった神の言葉にたよるほかはない」という信念が正しいという根拠はどこにも見当らない。われわれは神が人を救いに導くために今も昔も同じように御言葉を与えようとしておりたもうことを信ずる（「聖徒の道」一九六一年九月号四九六頁参照）。

末日聖徒の聖典である「モルモン経」、「教義と聖約」、「高価なる真珠」はいずれも聖書の原記録にあったままの福音を明らかにして現在の聖書の中にはっきり述べてあるにかかわらず人々のつまずいている点に正しい光を照らし、人間の誤ちによる欠点を補い、抜き取られた貴い部分を回復している。

このような「啓示のつずくこと」に反対する人々はヨハネ黙示録にある「この書の予言を聞くすべての人々に対して私は警告する。もしこれに書き加える者があれば、神はその人にこの書に書かれてある災害を加えられる。またもしこの予言の書の言葉をとり除く者があれば神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都からとり除かれる」（黙示録二十八〇十八・十九参照）という聖句をよく引用する。ヨハネは

今われわれがもっているような聖書の結びの書として黙示録を書いたのではない。ヨハネの言っている言葉の真意は、啓示によって彼に与えられた故に神聖なものである「この書すなわちヨハネ黙示録」の言葉を削ったり増したりして彼の記録を変えるなら、それはすなわち神の言葉を変えることであるから罰を免かれない、というのである（「信仰箇条の研究」四〇四―四〇五頁、「聖徒の道」一九六一年九月号四九九頁参照）。

四、聖書の解釈。

聖書は正しい信仰と正しい生活とを指導する標準の聖典であるから、これを「歴史的な文書の編集書」として考古学者の態度を以て研究したり、豪華な表装を施して客間にかざっておいたりするのは聖典としての聖書本来の目的からはるかに離れている行為である。**聖句は「道を求める人々」もしくは「道にはげむ人々」を「この場で即刻」指導する「生きた言葉」である。**従って聖書は「歴史的な文書の断片を集録した書物」としてではなく「この場で即刻」各個人を指導する「生きた力」のある「完全な一冊の書物」として解釈を施すべきである。

このような態度で聖書を読むとき、聖書は読む者の目的物であると同時に、聖典である聖書自身としてどのような解釈を施すべきかを主張する権利をもつ。

「またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。そして聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る」（モルモン経、モロナイ書十〇四・五参照）という言葉は、聖典を読む者の正しい態度をはっきりと示していると共に、聖典自身の主体性もはっきりと示している。

しかしながら、われわれは聖書を解釈するに当って「自分が聖霊の代りをして解釈をすることができると思う」誤ちを犯してはならない。また一教派に都合のよいような独断的解釈を施して「広大な神の知恵を人間の知恵で限って」はならない。

末日聖徒は、人を救いに導くために今も昔も同じように神が御言葉を与えたもうこと、すなわち「啓示がつずく」ことを信じ、教会全体に関する啓示は「予言者、聖見者、啓示を受くる者」である「教会の大管長」唯一人を通して下ることを信じている。それであるから、末日聖徒は「予言者ジョセフ・スミス」が「神の賜と能力」とによって飜訳をした「モルモン経」と、「予言者ジョセフ・スミス」に与えられた啓示の書「教義と聖約」、「高価なる真珠」ならびに「予言者ジョセフ・スミス」に与えられたその他の霊感によって示された「聖書の正しい解釈」を受け入れている。

「モルモン経」、「教義と聖約」、「高価なる真珠」はみな共にイエスがキリストであることを証し、また聖書が真正の聖典であることを証すると共に聖書の真理をさらに明確にしているのであるから、**「正経（カノン）としての聖書」を「神の予言者に与えられた啓示の**

光に照らされて」解釈することこそ「聖書の正しい解釈」である。

五、聖書解釈の例。

(イ)パラダイス。イエス・キリストが十字架につけられたもうた時に二人の強盗も一しょにはりつけの刑に処せられたが、そのうちの一人はイエスに向って悪口を言いつずけた。しかし、もう一人はそれをたしなめた末に言った「イエスよ、御国に入りたもう時われをおぼえたまえ」と。するとイエスはこれに答えて言いたもうた「われ誠に汝に告ぐ、今日汝はわれと共にパラダイスに在るべし」(ルカ伝二十三〇三十二—四十三参照)。

この「パラダイス」についてはいろいろの解釈があるが、「パラダイス」とは父なる神の住みたもう天国ではない。

十字架の刑を受けてから、三日目に、復活体となって居りたもうたイエスは、朝早くまだ暗いうちに墓へ来たマグダラのマリヤに向って「われにさわるな。われいまだ父のもとに昇らぬ故なり」と仰せになった(ヨハネ伝二十〇十七参照)。

これによって、十字架受難の直後の三日間その体が墓所の中に横たえられていた間、イエスの霊は天国に昇って父なる神のみもとへ行きたもうたのではないというイエス御自身の確かな言葉を聞くのである。パラダイスとは父なる神の住みたもう天国ではなくて、肉体を離れた霊たちの居るところである。

イエスの霊は肉体から離れた三日の間何をしておりたもうたか。使徒ペテロはこのことについて証をする充分な資格がある者と認められる。彼は「キリストも汝らを神に近づかせんとて正しきもの、正しからぬ者に代りて一たび罪のために死にたまえり。彼は肉体にて殺され、霊にて生かされたまえるなり。また霊にて行き「ひとや」に在る霊に宣べ伝えたまえり」と言った(ペテロ前書三〇十八・十九参照)。

ここにイエスの霊が肉体から離れて居たもうた三日間にしておいでになったことの説明がある。イエスは「霊にて行き「ひとや」に在る霊に宣べ伝え」て居りたもうた。同時にかの強盗の霊の行った所も明かであって、それは霊たちの居る世界の「ひとや」であった。

この霊界の「ひとや」に居た霊たちは「昔ノアの時代に箱舟の備えらるる間、寛容をもて神の待ちたまえる時従わざりし者ども」であった(ペテロ前書三〇二十参照)。

神の誡命を守った義しい人たちの霊は、パラダイスに在って幸福な境涯を受けているがイエス・キリストの福音を受け入れず真理に逆らう者の霊は古代と現代との差別なく誰でもみなパラダイスの中にある「ひとや」に置かれ、死ぬべき身を持っていた間に為した行いに対してのこりなく償いをするまで居なくてはならない。

あの強盗はその殊勝な言葉をイエスに認められたが、まだバプテスマを受けてその悔改めを実証し神の国へ入る資格を与えられては居なかったから、無条件に「義しい人々の居るパラダイス」へ行くことはできなかった。

イエスがあの十字架受難のときにあの強盗の一人に仰せになった言葉の真意は「われは今日汝を霊界へ連れて行ってやる。そこで汝は望みの如く救いの道を説き聞かされるにち

がいない」というのであった（「聖徒の道」一九六〇年二月号四十―四十二頁参照）。

(ロ)**パウロの言葉**。ロマ書第七章二十四―二十五節に「わたしは、何というみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。わたしたちの主イエス・キリストによって、神は感謝すべきかな。このようにして、わたし自身は、心では神の律法に仕えているが、肉では罪の律法に仕えているのである」という言葉がある。これを第八章二節の「なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである」という言葉とあわせくらべてみると、この二つの言葉を通じて大きな矛盾があることに気がつくであろう。

第八章二節の「あなた」は欽定訳聖書（英文）では「わたしme」になっている。これは「あなた」であろうと「わたし」であろうと問題ではない。要はパウロが「福音に生れかわった人のことを言っているのか、それとも「福音に生れかわらない人」のことを言っているのか、どちらであるかというにある。

もしも「福音に生れかわった人」のことを言っているなら、「イエス・キリストにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したのである」と言いながら「肉では罪の律法に仕えているのである」と言えるだろうか。

もしも「福音に生れかわらない人」のことを言っているなら、「福音に生れかわらない人」がどうして「心では神の律法に仕えている」ことができるだろうか。

もしもパウロがどちらの人のことも言っていないなら、それはキリストの福音と無関係な哲学を語っていることになろう（「たとえこの身は泥に汚れていても心だけは清いのだ」という解釈はキリストの福音とは全く関係がない）。

また「福音に生れかわった人」と「福音に生れかわらない人」との中間的存在は人間について考えられないから、ロマ書第七章二十四―二十五節および第八章二節の聖句について、このまま合理的の解釈を見つけることは不可能である。

しかしながら、「予言者ジョセフ・スミス」の改訳聖書ロマ書第七章二十六・二十七節には、ここのところが「もしもわたしが、わたしの内にある罪にうち勝たずに、肉で罪の律法に仕えているなら、わたしは何というみじめな人間であろう。だれがこの死のからだからわたしを救ってくれるだろうか。さればわたしは、わたし自身が心で神の律法に仕えていることをわたしたちの主イエス・キリストによって感謝する」となっている。

こうなってみると、矛盾しているところは少しもない。

人間の力ではどうすることもできない難問も、われわれが「神の予言者に与えられた啓示の光」を受け入れるときに容易に解決されるのである。

支部だより

甲府支部

美しい庭作りと記念の植樹

各支部の兄弟姉妹の皆様、お元気ですか、甲府支部の近況をお知らせいたします。

◇木（草花）を植えましょう日間

三月～五月の予定ではじまった「木を植えましょう」の運動?も大体完了。「あの木はN兄弟から」、「あの石はY姉妹のお庭から」、「この木は」「あの草花は!」とピンからキリまで?心のこもった木や花で甲府支部の庭は美しく作り変えられました。

支部長さんの菊地長老とイーガン長老、ウォーズリー長老とラーサン長老—宣教師の方々の熱心なる奉仕。火曜日は庭の手入れにと尊い時間を開拓者たちのように石の配置からはじまって荒れた庭を本当に目を見張るばかりに整備なさってくださいました。

しかし木は高価なものですから沢山購入することが出来ません—そこで素晴しい考えが提案されました—。

それは甲府支部を訪ずれる特別なる責任をお持ちの兄弟、姉妹の皆様に"記念の植樹"をしていただくことです。頭がよいでしょう?

その第一号は系図会の会長さんとして、又東中央地方部長会の第一副地方部長としてのお召を受けていらっしゃる渡部正雄兄弟—「系図の木」と名ずけられたもみじの木です。四月の第一土曜日の夜、ご来甲なさって日曜日には、いつも変らぬ柔和謙遜なるお話し振りと力強い神様への証詞とは地方にあって伸び悩む私共の心の糧となり心から感謝しています。

又、四月の第四日曜日には伝道本部MIA会長の佐藤襄二兄弟と姉妹からしていただきました。MIAの木と名づけ杉の木を植えました。これらの木の成長と共に私たちの霊も成長しつづける様心から祈っております。

◇宣教師の転出、転入。

転入　イーガン長老（伝部本部から）

三月二十日　ウオーズリー長老（福岡支部から）

転出　淵上長老（松本支部へ）

（吉村薫記）

松本支部

四月の様子をお知らせします。

松本に桜の花が咲きはじめた。四月十五日の安息日に伝道を終られて、日本の各支部を訪問されておられたホートン兄弟（もう、この時は長老とは呼ばなかった）と彼の御両親が、松本にも訪れて集会に出席されました。二年程前に松本でも伝道されておられた頃より立派(?)になられて、両親を導いて来られ懐しい思いであった事でしょう。聖餐会ではホートン兄弟の強い証詞を聞く事が出来ました。ちょうど、当日は私鉄のストライキで一時間以上もの遠路を徒歩で集会に集った信仰の強い姉妹が、松本にも居る事をお知らせ致します。

五月五日は子供の日でしたので、飯盒炊さんを兼ねたハイキングがMIAで計画されておりましたが、あいにく前夜半より雨が降り続きやむなく中止になりました。多数の出席が予定されていたのに誠に残念でした。

宣教師の働きと兄弟姉妹の助けがありまして、松本支部の会員がふえました。

四月一日　住吉佑子
四月二十九日　川窪健子
五月六日　藤井房江　一ノ瀬房子

以上の四名がバプテスマを受けて新しく会員になりました。姉妹ばかりですが熱心に教会に出席しています。

支部の組織において、少し変更がありました。五月六日に賛成の支持を得て任命されました。

子供日曜学校書記　大島和子姉妹
〃　教師　丸山陽子姉妹
聖餐会音楽伴奏者　橋本志保利姉妹
五月八日現在　（児玉記）

名古屋支部

○五月三日ピクニックが二組のパートに別れ挙行されました。

子供の日曜学校の生徒四〇余名は名古屋市内のオアシス鶴舞公園その他五〇余名の参加者は名古屋の近郊緑地公園にてゲーム、バレーボール、野球、フォークダンスに五月晴れの空のもとに若さを一杯みなぎらせ若鮎のように躍動する喜々とした顔、顔、

顔、皆んな日焼けして真赤だ。

私たちモルモンの集る所いつも神様の導きとお護りがあり今日一日を楽しく無事過しお互いの親睦を計ることができました。

○専任宣教師の移動

イラ・マリー・ペイン姉妹は日本に於ける伝道を終え帰国の途に着きました。（五月七日）。ルース・ヒサヨ・オーカワ姉妹伝道本部から転入。

○補助組織役員変更（五月十三日）

解任　YWM・I・A　会長長谷川恵子姉妹
　　YWM・I・A　副会長伊藤智慧子姉妹
任命　YWM・I・A　会長伊藤智慧子姉妹
　　YWM・I・A　副会長河村裕子姉妹

○五月のバプテスマは次記の通り

吉田武治、足立敏、相原信子、大鷹光子
平値茄子　松浦妙子

去る五月二十五日名古屋支部では、宣教師主催による荒城の月パーティーを行いました。この会は、会員、求道者の親睦、および友達を紹介しましょうという目的であり、入場券は友達でした。

地方部宣教師である上田嘉子姉妹の司会で開かれ、楽しいゲームなどを約一時間程度してその後、宣教師達の心あたたまる飲物、おすしを食べながら、荒城の月にふさわしい、タレント登場……

民謡、尺八、日本舞踊、独唱、琴、そして最後には全宣教師の木曾節であり、本当に日本的な雰囲気を味う事が出来ました。

本当に楽しかった意義深いこの荒城の月パーティーも全員合唱、荒城の月と共に終りました。この会により会員として、また宣教師として、末日において為さねばならぬ責任を心に強く感じました。（T記）

小樽支部

支部の庭にもスイセンの芽が出、私たちの支部にも春がやって来ました。

○三月四日バプテスマ

横山トラ蔵、和島せい子、岡本実、色摩靖

徳、間淵文子。
○神権者昇進
増田輝政、串岡信一、稲田清、松崎峻
石尾誠一、小島洋生
○三月二十五日日本人支部長誕生、潟沼利一兄弟うれしい春です。
○三月二十九日　ＭＩＡ演劇祭
○四月十九日　ＭＩＡタレントナイト、宣教師活躍。
○五月のゴールデンウィークは、バザー、ピクニック　支部大会と忙しい日が続きます
○現在宣教師、ガーグ長老、ヒーテン長老、ジョージ長老、西本長老。
○非専任宣教師、物江専美子姉妹、石塚明子姉妹。
○名古屋支部より若松道範兄弟移る。
「御霊に生きる人」潟沼誠二兄弟作
小樽支部演劇部員出演
ダイコン役者ですって、いいえすばらしいスターばかりですよ。
まあこの写真を御覧なさい、パウロ（潟沼兄弟）を中心にジンと心打たれるドラマでした。まだ雪の残っている日に、ユダヤに観客までが行ってしまった様です。
劇の最後に朗読者はこう言っています。

「主は、アナニアを召し、サウロに目を見える者とした。
彼の視力は真理の奥をみつめ、神様の奥義を悟った。
主はサウロを十二使徒に召し給い異邦人、子たち、イスラエルの子そんの前に主の名をもち行く者とした。

彼の友人バルナバとともに、
クリスチャンの最大の敵はこのようにして後に友となり兄弟となった。その名をサウロいやパウロという……」
タバナクルの歌う讃美歌と共に静かに幕は落されました。

（長谷川美智子姉妹記）

札幌支部

昭和三十七年を迎えて、今年の抱負などを胸にきざみ、やがて春の訪れに目をほそめ、日々にとけゆく雪を見ては小踊りし、一年の始まりとも言うべき四月を迎えそれぞれ生活に慣れほっと気をやすめてみると、新緑の季節になっていました。毎年くり返されることではございますが、今年札幌支部は随分変っております。

その一、結婚

四・五年前に改宗された人々が相ついで結婚なさいました。

三月九日、牧野節子姉妹、二十四日笹尾素子姉妹、五月三日安達悦子姉妹と旭川の遠藤兄弟、五月十九日西島吉彦兄弟、六月二十九日、高橋良臣兄弟、そして倉見光男兄弟と安達あや子姉妹は婚約なさいました。

牧野姉妹と安達悦子姉妹は教会のない土地に行かれましたが、笹尾姉妹は名古屋に行かれました。名古屋支部のみなさんよろしくお願いいたします。挙式にいそがしい神権者のみなさん、でもかっては自分もそうされ、あるいは、いつかはそうされるのですから。

姉妹のみなさまに心からお願い申し上げます。

その二

ハワイより「ラーメンが食べたい」—小城理子姉妹

札幌支部におりました小城理子姉妹が彼女の強い希望と努力のかいあって、ハワイのチャーチカレッジに留学なさいました。五月中旬の便りでは、とてもお元気な様子、支部一同安心いたしました。ただ一つの悲しみの言葉「ラーメンが食べたい」彼女は健康で明朗活発、頭脳明晰にして容姿端麗、とてもしっかりしています。信仰が深く生きています。本当に人に愛されます。彼女といると楽しくなります。いかに彼女の存在が大きなものであったかを感じています。バルカセ長老をご存知ですか、彼にバッタリ会ったそうです。彼女のアドレス。

Miss Tomoko Og!
c/o Proffessor Jock-A Bowen
c/o Church College Box 18
Laie, Oahu Hawaii.

西宮支部

各支部の皆さんお元気ですか。一歩一歩と前進して充実をましている私達の支部の五月の活動を御紹介致しましょう。

○五月五日は三の宮支部と共にして楽しいピクニックを計画しました。雨も又憎からずや、それに代って午前中は三の宮支部にてゲームとダンスを楽しみ、そして午後からは谷間に沿っての岩登りならぬ石渡りと女性たちを危機よりかばう兄弟たちの献心的なる態度に新たに敬意を表した。まず何よりも親睦の意義充分なりと云うところです。

○五月二十四日ゴールド・アンド・グリーンボールは毎年変らぬ会員たちの機知ある計画の基にくり広げられる楽しいダンスパーティでした。

MIAの絵画部で熱心につくられた紙彫刻やデッサンが壁に展会されて踊り乍らもMIAの発展を知るよい機会であった事は素晴らしい事だと思いました。

○五月二十六日宣教師の考案はいつも必適敵中というところ、その日も会費五〇円と各自に野菜類一種を持参させおいしい食事をつくり、夜のライトに照らされた美くしい庭と広場には石でつくられた炉に赤く燃える火をかこんで歌ったり、堀田兄弟のクラリネット等の独奏が静かな空気の中を赤く燃える信仰の情熱に似て夜空をひびかせてその雰囲気は

すばらしい程良いものでした。屋外ゲームも楽しく卵割り競技に勝った人たちはかくし芸のプレゼントが送られて、負けた人たちには食事の準備と、又〝毛糸のカーディガンを着ている者はウエスタン王国の法則に反する者として皿洗いの刑に処す〟等と突如と現われる田口裁判官と藤田検事と安芸保安官のユーモアある笑いの中にかたづけられるという運用の良さに全く感心する事ばかりでした。

○先月御結婚の生活に踏み入れられた田口御夫婦は益々支部に努力をはらって働らき、又御家庭にも愛ある信仰生活の人生第二歩目を送って居られます。モルモンの家族がふえる程モルモンは発展してゆきます。又世間の皆さんにも真理を知って頂く事も多くなってくる事でしょう。その為にも兄弟姉妹の皆さんへ、貴方の御幸福を得るようにお互いに良い人格と教養を生んですばらしいモルモンの家族をつくる様に努力して下さい。では次号でおあい致しましょう。

東京西支部

○福田真兄弟を送る会

転勤の為に仙台へ行く事になりやむをえず支部長をおやめになった前支部長、福田真兄弟の送別会が五月一日開かれました。長い間西支部の為に本当によく働いて下さった福田兄弟に、心からの感謝をこめて多くの兄弟姉妹がお礼の辞、歌、かくし芸等を披露しました。又、福田兄弟からの答辞に一同再び感謝の念でいっぱいになりました。

最後には福田兄弟が仙台一高の応援歌を教会堂中に響き渡る様な大声を張り上げて身ぶり手ぶりもよろしく熱演しました。その印象的な光景は兄弟姉妹の胸にいつまでも深く刻みこまれているに違いありません。

〝マコちゃん〟の愛称で皆に親しまれていた福田兄弟がいなくなる事は、西支部にとっては大変残念であり寂しい事ですが、彼の素晴しい行いを一人一人が手本として勉強し働いてゆくならばこの西支部は、もっともっと発展するでしょう。福田兄弟の上に常に神の導きと祝福がある事を一同心から祈りつつこの送別会の幕を閉じました。

○MIA支部大会

五月十七日、MIA支部大会が催されました。この日は各活動で今までに勉強してきたその成果を発表しあいました。

コーラス、ギター、演劇等次々にくりひろげられる催し物に、笑ったり、しんみり聞き入ったり。

特に浅田恒則支部長の母校応援歌は皆の笑いを大いに集めたようでした。

○新支部長会結成

支部長　浅田恒則兄弟
第一副支部長　石川善次郎兄弟
第二副支部長　島田邦男兄弟
書記　松島烈偉兄弟
書記　松浦孝康兄弟

○今月のバプテスマ

前田洋子　西貴子　小堀訓男　楠元堅一
宍戸純子　若林さち子　村嶋清恵　伊藤栄植

阿倍野支部

テーマ「職務につとめ忠実なれ」

阿倍野支部　田中美智子

私たちは霊に於て神の子供であり、進歩するためにこの霊を肉体に住まわせるよう肉体を持つ機会を与えられていると教えられております。そしてこの世の生活は身と霊とを進歩させるために種々なることを学ぶ時であると信じております。では私たちはこの肉体を持つという意義を知って何をする事によって進歩することができるでしょうか。創世記三章一九節に「あなたは顔に汗してパンを食べ

……」とありますがもし私たちにこの律法がなければ人類は今日これ程進歩することはなかったでしょう。ですから働くことによって進歩することができるということをはっきりと知る事ができます。そしてこの「顔に汗してパンを食べ……」は人類が進歩しより完全になることのできる神様の御計画であるということが良く分ります。ここで私の体験をお話しして見たいと思います。会員になって丁度一年になりますがこの一年間の信仰生活を振り返って見て、これをランプの灯と仮定しましょう。家庭集会を受けバプテスマを受けた時の私は油のたくさんはいっているせいで明るく輝いていました。けれど二・三ケ月たちますと、だんだんと油が少なくなりその灯は弱くなってきました。そして教会へ来る足さえも重くなりました。そんな時教会へだけは出席しようといつもいいきかせて大変非積極的な態度でしたが出席しつづけておりました。そんなある日一人の姉妹から「MIAのレッスンをして載きたいのですが」と云われて驚きました。「とても私にはできません。自分自身さえ勉強している途中なのにレッスンをするなんて」と答えました。その時姉妹は「レッスンをするのは何も人に教えるというのではなくて一諸に勉強するのであり、それにそのことによって貴女はきっと大きな恵みを載くでしょう」と話されました。この時の「大きな恵み」という意味が私には良く分りませんでした。今から考えますと私の弱いランプの灯が今日までともり続けたのはこの恵みに他ならない。そしてもしあの時に私の戴いた責任を断っていたレッスンの為に準備もしなかったならば今日皆様の前にお話しすることもなかったと申しても過言ではないでしょう。マタイ伝二十五章に「又天国はある人が旅に出る時その僕共を呼んで、自分の財産を預ける様なものである。すなわちそれぞれの能力に応じて、ある者には五タラント、あるものには二タラント、ある者には一タラントを与えて旅に出……そしてだいぶたって主人が帰って来て計算をしますと五タラント与えられた者は他に五タラントを差しだしました。主人は「良い忠実な僕よよくやったあなたがわずかなものに忠実であったから多くのものを管理させよう。私と一諸に喜んでくれ」と言いました。そして二タラント与えられた者も又他に二タラントをもうけましたので主人は同じように云って喜びました。けれど一タラント与えられた者はそれを地に埋めおいたので主人は「悪い僕よ……」と云いました。私たちは教会に於てそれぞれ責任を戴きますが、このタラントのたとえの五あるいは二タラント与えられた僕のようにその職務に忠実であれば神様は本当に多くのすばらしい恵みを下さいます。これは決して教会の役務に限らず、すべてに対して云えることです。アメリカに於て末日聖徒の勤勉さは驚く程であると云われております。そしてこの約束はジョセフ・スミスに給わった啓示によって良く知ることができます。「およそ多く与えらるる者は多く求められ、又一層大いなる光に抗らいて罪を犯す者は一層大いなる罪の宣告を受くべければなり」。すべてを主の御名によってお話し致しました。　アーメン

東京北支部訪問記

渡部正雄

〝北の国々に在る者たちは、主の前に主を憶えて出で来る。またその予言者たちも、主の声を聞きてもはや自ら抑うる能わず、彼ら巖を打ちて、氷その前に流れ下らん。一つの大路は大いなる淵の唯中に現われ出で彼らの敵はかえりて彼らの餌とならん。不毛の砂漠の中に生ける水の池出で来り、焼けたる池はもはや湿いなき土地にあらざらん〟（教義と聖約第百三十三章二六―二九）

五月六日、朝七時に横浜の家を出た私は東横線で渋谷へ、それから国鉄に乗換え、北の方目ざして池袋駅下車、あわただしい西武デパートの玄関口を出て右に折れ、約十分歩くと、左手に四階建ての白堊の殿堂が朝の陽光を一めんに受けて美しく聳えている。これぞ、かりずまいとは言うものの数年来、北の兄弟姉妹、求道者たちの集って来た、シオンの地であり宏壮な武蔵ドレメの校舎は、安息日には神の王国として、その威容を輝かしている。

末日聖徒イエス・キリスト教会東京北支部の看板も懐しく、その門をくぐって地階に降り行けば、早や福田支部長を囲んで稲垣第一

副支部長、神崎第二副支部長、支部長会の真最中である。まだ八時半を、少し廻っただけだが、張切った日曜学校の会長、小林義生兄弟の元気な顔が見える。

「これ今月の聖徒の道です。どうぞ」

手渡された懐しい私たちの機関紙、ロンドン神殿の下に五月号の三字が鮮かに浮き出ている。これぞ神の王国を広くこの日本の地に述べ伝える唯一の雑誌、その編集委員として、小林兄弟は学業の傍らその編集に日夜献身、毎月多忙な日を送って居られる、昨夏、来日されたBYUのハイヤ教授は、エラにも負けない素晴しい雑誌だと激賞されたとか、私たち会員一同は小林兄弟と佐藤龍猪兄弟にいつも深く心から感謝している次第であります。

早速中を開くと、これは又何んと素晴しい二枚続きの色彩も鮮かな大きな教会堂の画だ。下に東京北、西、南支部完成図と記されている。

「おお素敵だ」私は思わず歓声をあげた。この北支部の兄弟姉妹たちの喜びは如何ばかりであろうか。待ちに待ったこの会堂、この日本の地に始めて建つ新しき福音の殿堂、祈りの家、学びの家が先づ第一にこの北の兄弟姉妹の多年の夢に応えて、北の空に建てられるのだ。誠に〝一つの大路は大いなる淵の唯中に現われ、砂漠の中に生ける水の池出で来り〟である。

「北支部の皆さんおめでとうございます」と私は心から申し上げずには居られなかった

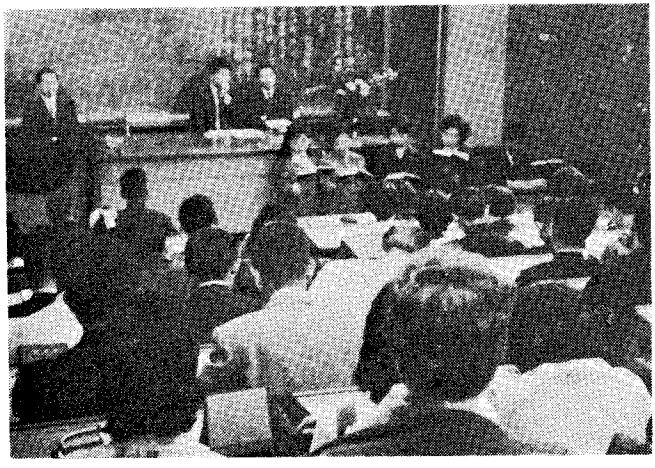
ぞくぞくとつめかける若い神権者たち、午前九時、神権を讃える歌声も高らかに先づ神権会が始められた。教師の山田五郎兄弟は最近伝道を終えて特に彼にとっては懐しの故郷北支部に戻り、つとに北支部三羽烏の一人と言われ、首を長くして待って居られた姉妹と晴れの新しいスタートをした、今日この頃その教授にもなかなか熱が入って居り、又伝道の経験を生かして教授法も堂に入っている。生徒の席にも上野道男兄弟、佐藤襄二兄弟など堂々たる伝道部指導者たちが顔を連らねている。地方部、伝道部の指導者の多いことで、恐らくこの支部は日本一である。先づ佐藤兄弟一家はお父さんの田中英雄兄弟が地方部長会、又襄二兄弟は愛妻の栄子姉妹と共に文字通り一体となって地方部、および伝道部のMIAの指導に当って居られる。日曜学校は上野兄弟、鈴木百合子姉妹、扶助協会では鈴木明姉妹、音楽委員会では岡田兄弟、山岸姉妹、

又地方部評議員で北支部のお父さんの丹羽兄弟、誠に〝北の国々に在る者たちは主の前に主を憶えて出で来る〟である。この支部の強力なメンバーが、こうしてどしどし、と地方部、伝道部の指導者に引き抜かれただけでなく、嘗て西支部再建の為に、この支部の支部

長会が福田真兄弟始め石川、島田、松浦とごっそり引き抜かれ、この兄弟たちによって新進気鋭の西支部、支部長会が結成されたのだった。けれども主の前に主を憶えて出で来る若い熱情の信仰家は後をたたず、ぞくぞくと前進して、年若けれど苦労した愛の人福田濃兄弟を支部長に迎えて、忠実な信仰の一家、家族の夕べも楽しい大家族を守る稲垣兄弟と、若い熱血ほとばしる、神崎良太郎兄弟を副支部長に、この火を吐く機関車は北の国の氷を打ち砕いて、前進しているのである。誠に北支部を訪問する者の、誰の眼にもうつるのは、この兄弟愛の熱情に驀進する神権列車である。神崎兄弟を中心とする、チームワークがこの列車の動力で、これがつい、先日に行なわれたダンスパーティにも六万円の収益をあげる成果として現れたのである。神崎兄弟の、下宿先を我が家のようにして集う兄弟たちは種々な支部活動の企画推進に、夜の更けるのも覚えず、やがて皆で彼の部屋にごろりと枕を並べて明け方に至るそうだ。このブレーントラストの中には、才能に恵まれた高橋兄弟などが居て、見事なポスター、チラシなどもたちまちにして出来るらしい。〝やろう〟と云う意気ごみに一体となった兄弟たちの主導するこの支部の活動は誠にスピーディで常に予想以上の成果をあげているようだ。

午前十時、大人の日曜学校に先だって三階の一室で子供の日曜学校が開かれる。愛嬌のよい大田原姉妹が会長さんで二十人ばかりの子供たちはさも楽しそうに先生の話に聞き入って居た。新しい教会堂が建ったら、この子供たちもたちまちにふえて数組に分けねばならなくなるであろう。大人の日曜学校は五つに分れ、新求道者のクラスは宣教師上がりの山田兄弟、一年以上の信者は細野兄弟、以内のクラスは塚田姉妹、中高校生のABコースは高橋兄弟、系図のDコースは青柳兄弟が担当している。系図は今迄斎藤兄弟が会長として熱心につとめて来られたが、今度中央支部から新婚の遠藤兄弟夫妻を迎えて会長になってもらうとか、夫妻は仲よく系図のクラスに顔を並べていた。

今日の聖餐式は第一日曜日で証会である。今度祭司に昇進された小林、森村の両兄弟が朗々たる声を揃えて、パンと水を祝福された。この二人は実にリファインされた典型的な、モルモン青年で、その声も誠に魅力的である。一方が日曜学校の会長であるのに対し、他方はMIAの会長である。日本の各支部にもこのような素晴しい、モルモン青年が多数集まると日本もアメリカに劣らぬよきシオンの地となるであろう。森村兄弟は今度YWMIA会長の席を新進の神崎良太郎兄弟の弟さんの神崎武二郎兄弟に譲って、支部長会に入られることとなり聖餐をいただいた後支



持発表がなされた。ＹＷＭＩＡ会長には先程、パートタイム、ミッションを終えられた雨宮姉妹、支持を受けた後、宣教師の経験を通しての強い証を述べられた。現在のパートタイム宣教師として一条、酒井両姉妹が働らいて居られる。彼女たちは熱心に伝道している内に或時知らない内に創価学会の集会場に乗込んでいたらしい。〝彼らの敵はかえりて彼らの餌とならん〟その集会所に集っていた多勢の学会の会員たちは彼女たちの伝道に熱心に耳を傾けたばかりでなく、これをテープレコードに収めて、後日更に大勢の会員に聞かせるとか、又安息日に列を組んで北支部を訪問されたそうである。現に横浜支部では創価学会から改宗した熱心な一姉妹が、いつも安息日を聖く守って喜んで教会に集っている。主は誠に何処の方面にもその奇しき御業の御手を差伸べて居られるのである。

北支部を訪れてもう一つ眼にとまるのは、可愛いモルモンの赤ちゃんたちである。前扶助協会々長の稲垣姉妹の可愛い、赤ちゃんもすっかり成長して、もうお母さんの手から離れたようだが、現扶助協会長、福田姉妹の真理ちゃんはまだやさしいお母さんの懐がいいようだ。又上野兄弟姉妹の秘蔵っ子正道兄弟も、もう誕生日を迎えたそうだがやはりママの懐がいいと見えて、その巨大な体軀をママの胸に横たえ、ママはとても重そうだ。だが本人は一向におかまいなく、モルモン精神を発揮して、誰にでもその愛らしき手を差伸べて握手を求める。にこにことほほえむその笑顔の貫録にはお父さんも顔負けのていである。

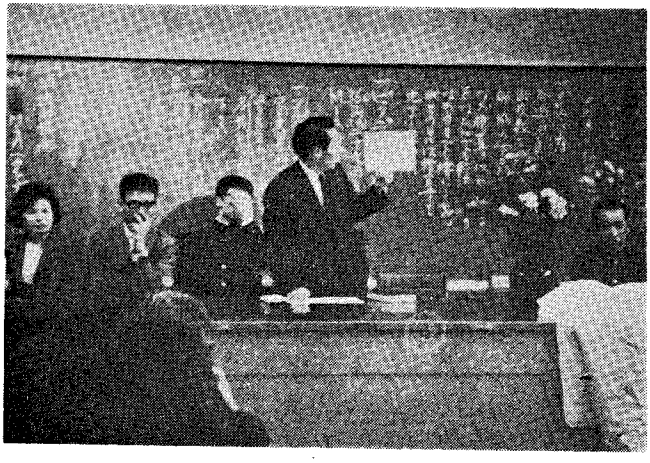
佐藤栄子姉妹の懐にも近々モルモン二世の呱々の声が聞かれるでしょう。

長い間、病の床にあった合唱団の恩人、山岸姉妹が、病気ですっかりスマートになられ、美しいお姿と天性の美声を以て再び壇上に指揮棒をとるようになられたのは北支部ばかりでなく、この地方部全体にとって誠に喜ばしい限りであります。この山岸姉妹と蔭の形にそう如く古くからこの北支部の音楽指揮棒を振って居られるのが誠に愛嬌美に光る谷保姉妹である。彼女も既にパートタイムを終えられ、その他この支部にはフール及びパートの伝道の経験を持たれた兄弟姉妹が多勢居られるようだ。

イエスは

〝誰にても天にいます我が父の御意をおこなふ者は、即ち我が兄弟わが姉妹、我が母なり〟

と言われたが北支部で信仰により養子縁組をされた尾古兄弟が居る、以前横浜支部に居た荒兄弟であるが、早くから子供さんと御主人を失って孤独であった尾古姉妹の家にこの程一人息子として養子になられ尾古姉妹は主が



恵んで下さったと喜び頼りにして居られる。

私が訪問した前の日曜日、四月三十日が支部大会で、この日、二十五日朝、昇天された河原兄弟の御両親が揃って教会に出席され、お父さんは壇上に立って強い証を述べられたそうである。河原兄弟は約三年程前北支部のＭＩＡの会長をして居られ、私が北支部を訪問したとき、丁度ＢＹＵに行かれるので出発を前に聖餐式で別れの挨拶をされたのをよく覚えている。日比谷高校を出られた秀才で、その後ＢＹＵでも、よく勉強されて居られたようだが、昨年末残念にも病に犯され、学半ばにして帰朝され慶応病院に入院されて居られたが、年若くして今度主の御許に召されたのである。私は二日前の二十三日の安息日に病院を訪れ、御本人は昏睡状態であったので面会出来ませんでしたがお父さんから同君の強い証を聞いて、

〝われにありて死ぬる者は死を味わうことなし、そは死は彼らにとりて甘ければなり〟

との聖句をしみじみと痛感したのであります。

お父さんの話によると同君は召される四、五日前から昏睡状態に入られたが、二十二日早朝、部長さんに潅油の儀式を求め、式が施行された後、約一時間に亘ってはっきりした意識で悔改めの言葉を述べ、お父さん、お母さんに教会に出席して会員となることを奨め、自分は何処までも生きて主に仕えることを誓って、又昏睡状態に入られたそうである。息子さんのこの強い信仰に動かされた、御両親は揃って教会に出席されるようになり、今迄事業に成功されて大勢の人を使って居られる、お父さんがこれから真の人生への再出発であると意気込んで居られるのを見ても、河原兄弟は永久に生きて居られることを強く感じるのであります。葬儀が遠く小岩のお宅で行なわれたのに、又亡くなられてすぐであったにもかかわらず北支部一心同体の連絡網はよくその効を奏して、二十数名の会員が葬儀に参列され、しかもその大多数は河原兄弟を知らない新しい会員たちであったそうですが、ここに北支部会員相互の兄弟愛の深さがよく伺われ、主の御許に在る河原兄弟はもちろん、御両親のお喜びも如何ばかりであったかと思います。又このような会員のうるわしき愛情に感激して御両親の改宗決心もいよいよ固められたのでしょう。先日佐藤竜猪兄弟から、改宗した河原一家を中心として再び東京東支部が開かれる運びとなっていると聞いて、曾て北支部より西支部が新発足したように再びここに北支部より東支部が再開されんとしているのを見て、再び冒頭の聖句、

〝北の国々に在る者たちよ、彼らは永遠の悦びの歌をもて満たされん〟

（教義と聖約百三十三章の三十三）

を思い出し、神の祝福がこの信仰に結び合う北支部会員一同の上にあり、前途益々発展するよう、主の御栄がこの地に輝きわたるよう心からお祈り致す次第であります。

（丁度この原稿を書き終えた処に、二年前に日本に伝道し目下ＢＹＵで学んでいるチェース長老から一通の手紙を受け取った、先日私が彼に河原兄弟のことを知らせてやったのに対し次のように書いてあった。

〝河原兄弟がアメリカで入院した時、名医で評判のナイマー博士はＢＹＵ留学生顧問のバリフ博士に河原兄弟の生命は数時間しか持たないと告げられた、それで自分たちは急いで病院にかけつけて潅油の儀式を施した処、翌朝彼は元気づいたのである、けれども博士は数日間の寿命であると主張した。今私は貴方の手紙により、彼にはまだなすべき務めがあったので、神権の力により主が彼を無事日本に送り届けたことをはっきりと知った、彼はその証を両親に伝えた時、始めて主の許に帰ることが出来たのでしょう。〟

天に召された河原節夫兄弟

鈴木　明
（東京北支部）

四月二十三日河原節男兄弟は御両親、御兄弟、肉親の方々、また病院の先生方の県命な看護もかいなく私たちの祈りも空しく天のお父様に召されてこの世を旅立たれました。

今年の始めまで、学業をおさめて元気で帰国される時を信じていた私でしたし、昨年末、病にたおれ危篤から立直られて帰国されたのを知って病院にお見舞しても、元気になって再び教会で活躍される姿のみしか思っていなかった私にとって、彼の死は本当に大きな驚きであり悲しみでした。ひつぎに花をささげ眠れる姿を見、火葬場でお骨になるのを見ても、まだ信じたくない思いがするほどに、でも今思出のためにペンを持つ時生死を越えて不思議に河原兄弟を身近に感じています。なぜでしょうか！　彼の信仰が私に福音の真実性をはっきりと認識させ、神の存在と神の御国をより深く知らせてくれたからだと思います。

死の前日、病院を訪れた私に、お父様は彼の信仰が自分にあたえてくれた心の変化について話され、御両親がバプテスマを受けて教会に入ることを熱心に勧めており、病苦の中にあって、伝道部長をおまねきして自らを悔い改め、強い信仰の火を燃やし続け、伝道に出ることを熱心に希望されていることを話して下さいました。そして病苦が増せば増す程彼の信仰が強められ、御霊の導きを強く受けたことに大きな驚きを感じ、彼の純すいな美しい心が主の御霊を素直に受け入れ、主の御手に生かされたことを知ることができました。

人間の心が純すいな時正しい者を見る目が開かれます。

私自身がこんなに大きな悲しみを受けると思っても見なかった悲しみを受けたのは、彼の兄弟姉妹としての真の愛が私の愛を呼びさましたためであり、神によって結ばれた兄弟姉妹が真実のもので有り、総て神によって結ばれねばならぬことを強く強く教え、証としてあたえてくれました。

私が教会を知って、東支部を訪れた時、河原兄弟は宣教師を助けて今井兄弟と共に働いていました。そして支部が発足して閉じられるまで、いっさい支部の中にあって、いつも熱心に親切に人々に接し、アメリカ留学の希望に燃えて勉強すると共に、福音についてよく知識を得、人々の導き手となって働き、理くつ許り言って素直に真理を受け入れようとせぬ私にも良く質問に答え、一諸になって勉強して下さいました。またMIAにあってはリーダーとして活動面でも若い人々の先頭になって働く河原兄弟を見ない日はない程で、北支部に移ってからもMIA会長として熱心に指導にあたられたので多くの人々の記憶にあることと思います。

教会で熱心に自らの証を延べる河原兄弟、ピクニックで若い人、年取った人総てに気を配ばって参加全員が楽しい思出をのこすようにつくされる河原兄弟、希望に燃えて逢う日迄つつがなくを歌ってアメリカへ旅立たれた河原兄弟そして三年振りで病を得て帰国され、知らぬ国でつらいこともあったでしょうと聞いた私たちに皆の親切と愛のみを語られた河原兄弟、良い思い出ばかりをのこしてくれた河原兄弟、今、これを書いている私を見て笑って下さることでしょう。私たちの手のとどくこの世から、素晴らしい一人の兄弟を失い、私たちの困難を助けてくれる働き手を失って悲しんでいる私をパラダイスにあって励ましてくれているでしょう。

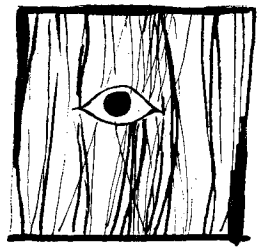
両親から受けついだ良き天性と信仰によって誰からも愛され愛をあたえた河原兄弟は、この世を離れる時も御両親に教会を知らせ、福音を知らせてゆかれました。そして私たちが両親家族また先祖と共に日の栄光の救を得ることを知らせ、この世のあたえられた総てをはたして天のお父様の元で先祖のために働くよう召されたのでしょう。世にあって宣教師たちを助けて働いたように、霊界にあって神の僕として熱心に伝道している姿が目に見えるようです。

伝道部長がおっしゃったように河原兄弟は主によって生き霊界に喜び迎えられました。河原兄弟と共に又多くの愛する人々と共に住むために、天のお父様の元に帰れるように福音に従って歩み、彼の希望が実るように御両親と共に進みたいと願っています。

河原兄弟がいつまでも私たちの希望であり、主の愛によってますます進歩し私たちの助け手となって下さるように、また御家族の上に神様の幸福が豊かにあり、彼と共に永遠の幸せを得るよう心から御祈りし、総てをイエスキリストの御名により記しました。アーメン。

人の心の扉とその壁について

高橋　勝俊
（仙台支部）



或る人の心は広く、或る人の心は狭い。或る人の心は慈愛に満されており、或る人の心は嫉妬、憎悪にむしばまれている。それはその人の心の扉の在り方と壁の性質によって定まる。このことについて私は無意識の内に永年、考えていたように思う。それをここに明らかにして自らの心の扉とその壁によって、自分の人格を形成する最も大切なことについていま考えて見たい。

その前に一言、人の心の扉とその壁とその中につつまれている生命の元素ともいうべき神秘的なものについて説明しておきたいと思います。明治初期の北村透谷は「人須らく心の奥の秘宮を重んずべし、これをあきらかにすべし、これを直すべし、これを白からしむべし、これを公けならしむべし。大罪大悪の消ゆるはこの奥にあり、大仁大善の発するはこの奥にあり、秘事秘密の天に通ずるはこの奥にあり、沈黙無言の大雄弁もこの奥にあり、然り、永遠の生命の存するもこの奥にあり、かの説明し得べからずと言われた人生の一端の説明せらるるもこの奥にこそ、この奥にこそ人生の最大至重のものあるなれ。」と各人心宮内の秘宮の最後のところでいっております。各人心宮内の秘宮、すなわち人の心の扉とその壁の内とは同意義のように思われますが、その中にある心の根源となる人の生命は各人が平等に創世の前にあったもので永遠の生命に至るべく神によってつくられたものなのですが、その人の努力、忍耐、誠実、愛、希望、信仰によって後天的に各自の心の扉とその壁が各様につくられる。このつくられたものによって、その人の生命が永遠の生命を得るか、そうでないかが定まる。ここにその人の心の扉とその壁の形成され進歩されて人の生命の救いに入るか否かの重要性があ

ると思う。

人と人とが交わることは、腕を組んだり、共にゲームをしたり、一緒に仕事をしたり、食事を共にすることだ。表面的にはそうであります。物質的にはそうでありますし、それは誰れでも、誰れとでも同じようにできるものであります。しかし他の色々な人と一緒に仕事をしたり、共に食事をしたとき、そこには人が違うようにみんな違った色々な感性が生まれる。それはその人の心の扉とその壁と他の人の心の扉とその壁のふれ合いによって生ずるもので、或るときは価値ある経験をし、またあるときはつまらない思いを残す。

以上のことから解るように人の心の扉とその壁は生活をする上に如何に大切なものであるかが理解できる。このことに目を開かねば、その人の心は何時までたっても頑迷で、その壁は固く変ることがない。

心、心、心、心について考え思いを走らせたとき、無限に広がる夢があり、そこには大いなるロマンがある。美しさがあり、美徳がある。しかし同じ心でもその反対のことに思いを走らせたとき、そこには大いなる不幸があり、醜くさ悲惨が存在する。それもこれも全て自らつくる人の心と壁の広さによって決定される。或る人は自分の心の扉を前方におき、固い壁をその囲りにめぐらし他人の開入を許さず、自分を正しいものとする。また或る人は自分の心の扉を後方におき、人を自由に自分の内部まで入るを許しその壁も柔かくかつ強靱で時によってはその壁の位置を変えもする。その心の扉とその壁の許容と性質はそれぞれ違うものであろうが、このことによって「だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」マタイ伝二十三章十二節、に云われていることが本当であることを知ることができる。

では心の扉とその壁という表現をとっているが、その意味するところは何か。その目的は何か。

人の心の扉とその壁を取り去ったら、それは無に等しい。自分自身が無くなってしまう。それによってその人の人格が浮び上がり、個性がでる、それは必要欠くべからざるものであるが。では一体、その心の扉と壁の中にあるものは何んだろうか。前にふれてあったように生命。心の元素。それを知るのに、私は容易ではない。幸福の燃え立つ幻影を定着させ、それをつかんで見ようとするようなもので難かしい。その中には心の元素があり、生命の源があるように思うのだが、その中から生まれ出る心は春風のように、夏に過ぎる風のようにつかみにくい。ともすると反って自分自身の心を偽り、忠実でなく、又は知ることなく、つかんでいないときがある。

しかしその壁の中にあるものは神聖おかすべからざる尊いもので、個人の尊厳があり、人格を形成する秘密がある。それを如何に守り、如何に進歩させねばならないかに、心の扉とその壁の必要と目的がある。人の心の根源を知ることも、自分の心の根源となるものを知ることもできないが、それは余りにも神秘のベールにつつまれているから、しかし人の心の扉とその壁を知ることはできる。また自分のそれも知ることができる。それによってその人の心を知り理解を深めることができる。人間は生来、独立して造られてあり、孤独である。だから孤独を求めようとしたり、孤独であってはならないと以前には考えた。その時の私は孤独的であったからかも知れない。しかし〝己れを愛するごとく隣人を愛せよ〟これは動かし得ない律法である。この誡命が完全になされたとき、人々は孤独では

なく手を取り合い、血を通い合わせ共に立つことができるのであるが。自分と同じような心の扉とその壁をつくろうとしている人々に対しては己れを愛するごとく隣人を愛することは容易であるが、この心の扉とその壁についてこだわっている内は、全ての人を、いや全ての隣人を愛するわけには仲々できない。だからと云って、この考えを捨てることはできない。今まで多く秀れた人の言動や作品を通して、その人の心の扉とその壁を理解しようと努め、秀れた人を愛して来たのだから、それを捨てることは私にはできない。では全ての隣人を愛することができないので、私の考えがどこかで間違っていたのだろうか。〝聖なるものを犬にやるな。また真珠を豚に投げてやるな。恐らく彼らはそれらを足で踏みつけ、向きなおってあなたがたにかみついてくるであろう。〟また〝もしあなたがたを迎えもせず、またあなたがたの言葉を聞きもしない人があれば、その家や町を立ち去る時に、足のちりを払い落しなさい。〟とイエスは教えられている。ここに私の考えを解く鍵がある。またイエスは師のようになれば足りると云われた。私はイエスを師と仰いでいる。けれどもイエスは主であり、神であられる。私は師であるイエスのようになりたいとは思う。けれども私は人間である。そこで〝汝の主なる神を愛せよ〟と云う第一の誡命があり。〝己れの如く隣人を愛せよ〟との第二の誡命があることによって私は救われ、私の考えが救われる。

私は知慧ある言葉を求め知りながら、それを生かして完全なものへ向おうとする目的がある。その時、私の心の扉はたえず開かれ、その壁はたえず修正されなければならない。そしてその壁によって、その人の心を知り理解し合い光とならなければならない。これが現在の私の理解していることであります。もっと前に進まれている方がありましたら私のこの未熟な考えについて教えて下さい。私が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になってから〝隣人を愛せよ〟との命題について、たえず考えて参りましたが、現在の私は今ここにおり、石の上にも三年などと云う事を考えております。この諺にあるように私もやっと教会の上にも三年。大分、苦しい事もありましたがやっと三年近くになろうとしてます。

二月に神のあかし人となられたゴルドン・B・ヒンクレー長老が来日なされたときに話された講演の中に私達のなすべきことを明瞭に云われました。第一に私達の生活を清くすること。第二に教会を強くすること。第三に自分のもっているものを他人にわけ与えよ。と云われました。この第三のことがすなわち隣人愛であります。知慧を得ることは大切なことであります。他人にわけ与えることができる内で最も尊いものは自分の得た知慧を知らせたいと思うことです。そして互いに啓発し合うことであります。富を求めずして知慧を求めよと云う言葉もあります。また回復された福音の中で完き光明に照され、向うことができることは真に幸福の第一条件であります。

最後に私がこの文章を書くことによって私の考えが一層、明瞭になり知慧を得られたことは確かであります。永年に亘って隣人愛について考えて来ましたけれども私には仲々、難しく思うような解答が得られないままに今日まで来ましたが、自分に納得の行く答えをここに見ることができましたことを心から喜びとするところであります。これ等のことを全て御子イエス・キリストの御名を通して申し上げました。アーメン。

若いうちにすること

柳田　征史
（名古屋支部）

私たちは時々「若い頃はよかった」とか「若いうちにあれをしておけばよかった」などという老人の声を耳にします。ボクはよくは分らなくとも、そんな気持が少しは分るような気がします。そして現在の自分の若さに対し改めて感謝する気がおこると共に、今のうちにできることをやっておこうと思います。とにかく若さというものは何にも変えることの出来ない素晴しい宝であるにはちがいありません。それで、この宝を有効に使うために私たちは若いうちに何をしたらよいかということについて少し考えてみたいと思います。

若いうちは、将来についていろいろな可能性を持っています。Aの方向に進むかBの方向に進むか……職業や結婚についてもいろいろな方向がありますが、霊的にどのような成長をするかということにもいろいろな方向があります。それに、この世の中にはやりたいことが山ほどありますが、私たちには一つの身体と、長くても百年の人生しか与えられていませんから、それらを全てすることは到底できません。ですから私たちは人生において幾度か「選ぶ」という立場におかれます。そしてその度に迷う人もいると思います。そのような時に、確信を持って行動するためには、私たちはこの世で生活している目的についてよく知っていなければなりません。そういう人生の目的や人生全体の生き方について研究してみるのも非常に意義深いことだと思いますがここでは若いうちには何をしたらよいかということに考えをしぼってみたいと思います。

私たちの人生における使命は、与えられた肉体と時間とをもって、自己の力量、才能をできる限り発揮して自己を進歩向上させ、結婚をして霊を現世に迎え、父あるいは母としてその新しい人格を良く導き、家族として、又個人としてやがては完全になるまで成長できるように努力すること、いいかえれば父の許に再び帰るように努力することだと思います。

でも、若いうちにその目的に完全に到達することは不可能でしょう。若いうちにできることは、将来完全な人間となって父と共に住むことができるように基礎をつくることだと思います。

そのためには、肉体面と精神面との両方にわたっていろいろなことが考えられます。例えば、まだ頭が柔軟であるうちによく勉強しておくことや、父からいただいた肉体を発達させてその働きを良くするために若いうちによく運動をして身体を鍛えておくこと、或いは持って生まれた才能を伸ばすように努めることなど……でも、今ボクが特に考えたいのは「良い習慣を身につける」ということです

私たちが自分自身の成長を振返ってみると、いかに習慣が今の自分を形づくる上に大きな役を果してきたかが分ると思います。良い習慣を身につけると共に、悪い習慣を除くということも大切なことです。習慣は直すのが遅くなればそれだけ固まってしまって直し難くなりますから少しでも早く実行に移しましょう。

私たちは良い習慣を、聖典やその他の良い書物から、また他の人たちから学ぶことができます。

身につけようとする良い習慣を実際に探して身につけ、悪い習慣を除き、将来完全になれるように今のうちによく準備しましょう。

求道者のみなさんへ

「シロちゃんへ」

玉田睦子（三ノ宮）

お便りアリガトウ。「神」とか「神の愛」とか言ったって、私には説明もできないし、はっきりと、よく解ってもいない。強いて言うならばそれは自分で考えた主観的な神になってしまうかも知れない。それでもよいならば書くことにする。シロちゃんが、神の存在を認めるかどうかは別として、私はまず神が生きて存在していることを信じている。そのことを数学のようには説明出来ないが、ありとあらゆる自然が、宇宙が「それは真実である」と語りかけているのではないだろうか。ただ、人間がそれを悟ろうが悟るまいが、真実は永遠にして変りがないのであろうと思っている。私は、生れて十八年間、キリスト教的な話を聞き、またある時は仏教とか、回教的なものにも、また、キリスト教者の意見にも耳を傾けた。なぜなら「人間が何であるのか」「真実が何であるのか」それが知りたくてたまらなかったからである。結局、生きている間は迷いながら生きて行かねばならないだろうが、生きている間にも、何か真実のカケラくらいは見つけることが出来るのではなかろうか。私が、なぜ、君に、その例の教会を勧めているのか一口では言えないが、私のその「生きることに対する疑問」、「人間が何であるか、神が何であるか」の疑問に一番はっきりした解答を与えてくれたのが、その教会の宣教師であったからだ。それ以来、自分の、世界を観る目が何か変ったような気がする。そして、その気持は、どんな小説を読んだ時にも、どんな話を聞いた時にも得られなかった大きな気持であった。君が、神を必要とせぬならば教会に行く必要はなし。だが、キリスト教を一生懸命に否定する人はあっても、心の奥底から、神を一生懸命に否定する人がいるだろうか。デカルトが「我思う、故に我あり」と言った。私はいつも「我思う、故に我あり、故に神あり」と思っている。神の愛について私も、実はよく解らないが、何となく感じることが出来る。私は「失恋」とまでは行かないが「片思い」をしたことがある。その時に「ああ自分はこれほどその人のことを思っているのに、なぜその人は、自分のことをみじんも思ってくれないのだろう?」と（よく考えてみればあたりまえだが）一生懸命に苦しんだことがある。（私は、それまで、神は人間を愛していると言うが、一体どれほどに愛してくれているのか解らなかったのである。）その時、ふと、「神は人間の内に住まわせた霊をねたむほどに愛しておられる」という聖句を思い出した。人間の愛はいつか薄らぎ、いつか絶えるかも知れない。私は、神の愛が人間の愛よりもはるかに強く、美しく、犠牲的であるような気がした。そして、もし生きるならば、神様の愛を信じて生きて行きたいと思った。

グッバイ

けいず（三）

家族の記録

姓名の記録

渡部正雄

教会々員によって用いられている家族の記録は個々人及び家族の詳細及びその身分証明をするに充分な場所を備えている。それは教会の会員であるなしに拘わらず、すべての系図家にとって利用され得る、何となればそれは個人の生と死に就てのすべての重要事項を列挙し、完全な身分証明をしているからである。

この家族の記録に記入された若干の項目は単に教会々員にのみ関係するものであるが、その他の一般的なものに比べればその数はわずかなものである。

家族の記録の編集に種々の方法が考えられるが、他の芸術及び科学の分野に於けると同様に、いろいろの必要事項を記入すべき一定の形式、標準というものが設定されなければならない。教会の会員としては、これらの記録を神殿の儀式を受ける為に又系図協会の文庫に保存する為に、系図協会に提出するのである。その為多くの記録の中から必要なものを一定の標準に従ってまとめることの必要であることが当然うなづかれるのである、姓名年月日、場所、関係などの記録がもし一定の標準又は形式がなければ、混乱に陥ってしまうのである。次の四章に亘って述べられる標準は一見すると限りないようであるが、記録作成にあたって、出生、死亡、結婚、親族関係などに就て考えられる、すべてのありうべき状態を念頭に置いて多数の事例を挙げたのである。

この標準を左記の通り四つの主要な身分証明の項目に分けた。

姓　名

年　月　日

場所

関係

教会では、この複雑な系図において家族の記録を正確に作成出来るように会員を教育せねばならないのである。毎年、系図協会に提出される記録の内で数千、数万に及ぶ多数が間違いや不完全なために本人に返送されているのである。正確で完全な記録を系図協会に提出することが教会会員の責任であることが強調されねばならない。もちろん、筆記又はタイプ上の小さい間違いは協会において訂正することが出来るがそれは家族の記録の儀式完成への手続を阻害し、そのような点検に多くの無駄な時間を浪費する結果となっているのである。この四章を教会の各ワード部に於てよく適用する時は教会にとって数千弗の節約となるばかりでなく記録手続の時間を大いに軽減するのである。これらの章で取扱われている模範は単純なものである、四つの主要な身分証明事項について、考えられるすべての状態が述べられ、問題をはっきりさせるため少くとも一つの例が示されている、けれどもここで用いられている例は単に手引であって、それ自体完全な記録ではなく討議される問題の要点を示すものである、けれどもこれ

には表作成を簡素化したり必要事項の記入を軽減するような意図はないのである。完全な訂正を必要としないような記録の提出は決して不可能なことではないのである、すべての人がよくこれを読んで準備してよくこの標準に通じて記録を作成したら系図協会に提出する前に、又記念の書に綴込む前に注意深く再読点検すべきである。

家族の記録の註記の利用

記録作成に当って標準又は例によって示されないような特別なケースがある、そのような場合は、表の下の方か又は裏面に註記して説明を入れるべきである、その註記は記録文庫に永久に保存される最後の記録に附記されないが手続の段階に於て、これがない時は間違ったり完成されない恐れがあるのである。何となれば家族の記録の表には、一家族しか記録されていないからである。

一家族とは、夫と妻と、子供が居る場合に、その子供たちを含むのである。もしも男なり女なりが一度以上結婚した場合は、その間に子供が存在する、なしに拘わらず、それぞれの結合に於て別々の家族の記録を作成すべきである。

練習の讃美歌

百三十三番　暗い丘のあなたより

神の御福音があまねく世に広がって行くという意味の歌です。この歌詞を読む時、私たち聖徒に課せられた義務を心の底から感じます。世界中の人々に福音を伝えるために私たちもその働き手となる筈です。

曲は三拍子で美しく作曲されてます。メロディーには大数タイがついていますがこれはなめらかに歌うためです。時々、この様な歌をスタッカットをつけた様に音を切って歌っているのを聞きますが、指揮者は十分注意して最初からなめらかに歌うように教えて下さい。

各段に一拍の休止符がついていますが、往々にして休止符の前の音を長くのばしすぎて、休止符を無視しがちですから音の長さにも十分気をつけて下さい。

各パートについては特に難かしいところはありませんので、説明をはぶきますが、ただテナーは相変らず高い音を出さなければなりませんので高音を練習してきれいに歌って下さい。

指揮は三拍子の一拍から振りますが、歌い出しやすい様に拍子の3をサインしてから振る様にして下さい。

九月一六六番

十七番　安息の朝

安息日に日曜学校へ行く楽しい気持を歌っています。快活に、はぎれよく歌いましょう。

子供の声は高いですからオルガンのないクラスでは先生があまり低く歌い出さない様にして下さい。指揮は二拍子で振りますが、二拍子は一拍目がつよいのです、テンポは、元気に歩く時の速さくらいで良いでしょう。

歌詞がひらがなだけで書いてありますから歌の前に歌の意味を子供たちに話してやると一層よいと思います。

毎月申し上げて居るように先生が正しく覚えて、正しく生徒に教えて下さい。

九月子供は歌う、十八番

扶助協会会長会より

いと小さき者なれど

渡辺八重子

若いお母さん達へ

小さな子供をかゝえて毎日お忙しいことでしょう。無心に笑い、見る者の心をやわらげ思わず微笑をさそわれる乳幼児時代、又反抗期に入ってにくまれ口をきき、毎日お母さんの仕事をふやしてくれるいたづら時代、誰でもいろいろな時期を経て成長していくのですが、やはり子供は天使のようです。時々荒れる時があっても家庭の中にいつも小さな天国を作ってくれます。貴女は自分のまわり（世の中）をみる時、したい事が沢山あるでしょう。あれもこれも。又欲しいものも沢山あることでしょう。けれ共そうゆうことはさておいて、先づなすべきことはこの与えられた尊とい神の霊の子達を立派に育てること、身も心も健康に。悪から守り、わざわいからのがれさせ、あやまちのないように……。そしていつも信仰と祈りにみちた雰囲気の中に成長出来るように……。そのためには極力努力して教会へ行きましょう。特に聖餐式には、「汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様、祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし……」（教義と聖約第五十九章九〜十四節）〝子供が大きくなるまで待ちます〟それではおそすぎないでしょうか。「主の御霊常に汝を励まさじ」とは主の御言葉であります。育てる過程に於いてこそ福音は必要です。一番栄養に注意すべき幼児時代、口に入るものと共に心に入るものも特に注意しましょう。ウグィスは生れながらにして美声ではなく、名鳥と一緒にしておくと段々感化されて美声になる（才能教育研究所長談）とのことです。弱い私達は教会からはなれた環境にいるとだんだん福音からかけはなれた生活になります。貴女のために、可愛いゝ子供達のために、そしてみこゝろにそった〝愛あるホーム〟とするために努力しましょう。教会へ行くように。扶助協会の会員へ

このような若いお母さん達を助けてあげて下さい。小さい子供が大ぜいいたらみてあげて下さい。教会へ行けるように手伝ってあげましょう。道中も、そして教会へ行ってからも。（近くに住む会員は一緒に行ってあげるようにしたらいゝと思います。）又、子供連れの求道者の方には特に気をつけてあげましょう。会員の家庭で赤ちゃんが生れたら貴女の出来ることをしてあげましょう。そうすることによって貴女も神の霊の子達をこの世に迎える偉大な御計画の一部を手伝っていることになり天国にて報いを得ることでしょう。又、夫を亡くした人、妻を亡くされた方があったらその人々の必要としているものを与えるよう努力しましょう。悲しめる者には慰さめを与え、うえたる者には食物を与え、貴女の手を必要とする者にはいつでも喜こんで借してあげましょう。そうすることにより貴女は慈善の天使となり、より多く恵まれ、安らかな満された日々を送られるにちがいありません。

「まことに汝らに告ぐ、わが兄弟なる此等のいと小さき者の一人になしたるは、即ち我に為したるなり」（マタイ伝二十五章四十節）

皆様方の上に主の御祝福がいつも豊かにありますよう心よりお祈り致しております。

子供時代にきいた言葉や音楽は、彼らのいのちの一部となり、彼等自身の方向を決めさせることと思います。想像力の結晶としての言葉、すなわち詩の役割は大変、おゝきなものなのです。それはちょうど、聖書でいわれる「パン種」にあたります。

黒板にこれらの絵をかき、感じを伴って朗読してください。（絶対に棒よみはさけること）

段々に詩に親しみを増し、子供たち自身で作れるよう導きたいものです。

〃お留守番〃

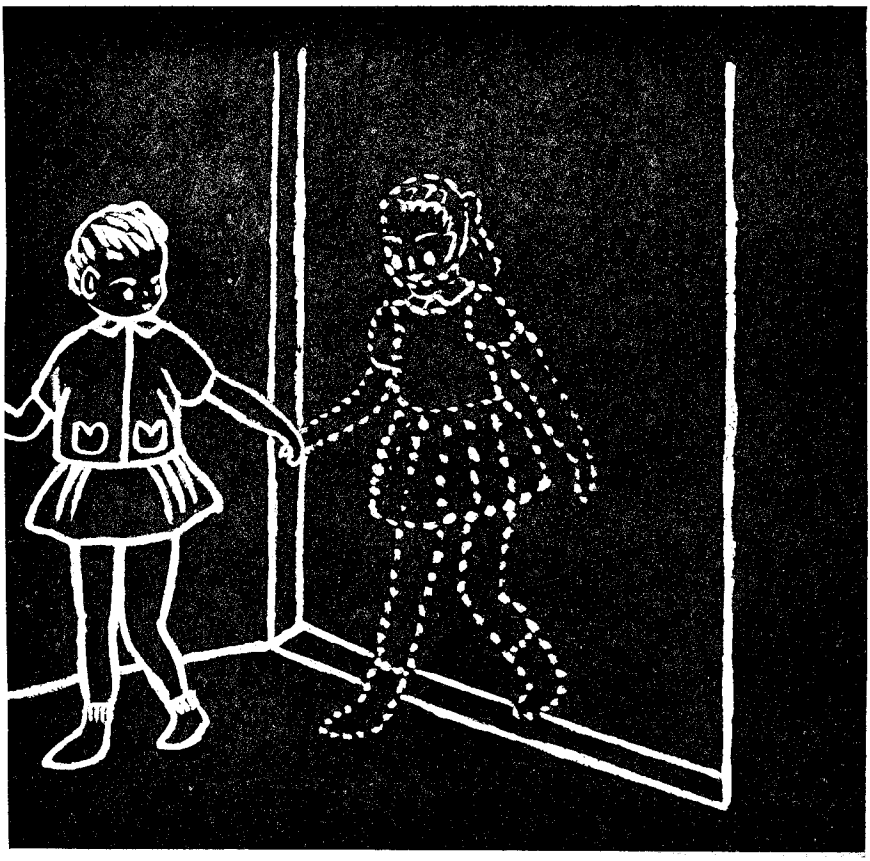
よく、お留守番していてネ、と
お母さんは、買物にでかけました。
私は一人ボッチ
時計の音だけがチクタク、チクタク
聞えてきます
とっても、とって静かです、

お隣りの良雄ちゃんは
きっと、ひるねしているのでしょう
笑い声が聞えませんもの
ほんとに、ほんとに静かです。

宿題も終ったし

サア！　何をしょうかな？

ガタガタ、ゴトゴト、
アッ！　何の音だろう
裏の庭の方だわ？　どうしょう？
お母さん早く帰って来ないかな……
いってみてこようかしら

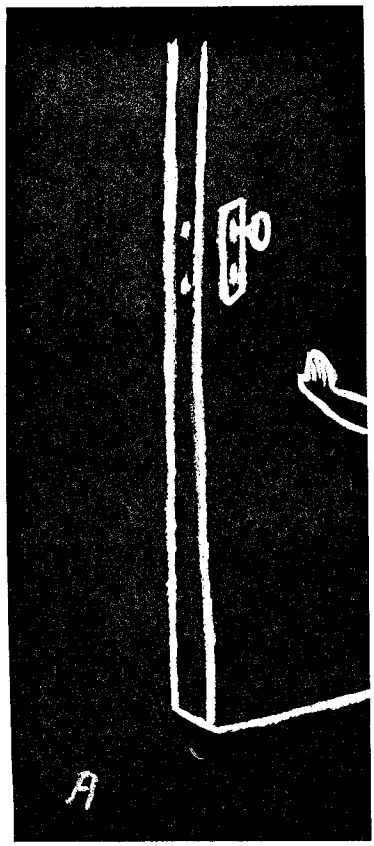


でも一人じゃ、こわいわ
そうだ！　私の大好きな友子ちゃんがいたワ
友子ちゃんと一諸に遊んでいれば
チットモ、こわくない
サア！　友子ちゃん、いらっしゃいヨ
お人形さんごっこしましようネ

友子ちゃんは、とっても可愛らしい人です
ポニーテールにして、大きな目を
くりくりさせ、それに歌がとても
上手なんです。

友子ちゃんと一諸に
讃美歌をうたうとき
良い事をして、ほめられた時と同じように
すごくいい気持になります
「ひかり、ひかり
　　イエス様のために」
二人の一番、すきな歌は
「二十八番です。」

日曜学校で習ったことを
友子ちゃんに、教えてあげる時
ニコニコしてきいています。



友子ちゃんは、私の一番好きな
お友達です

ジー
アッ！　玄関のベルがなりました
お母さんのお帰りらしいです
友子ちゃんと二人で
「お母さん！　お帰りなさい」と
玄関に走ってゆきました。

子供の頃、色々な夢をもちます。
おとぎの国のお姫様になりたいとか、
お菓子の国に行ってみたいとかｅｔｃ
これは、人形が人間化され、実際に自分
と同じ所におり、話しかけたりして遊ぶ
空想遊びを基にして作ったものです。

!! ラクガキ !!

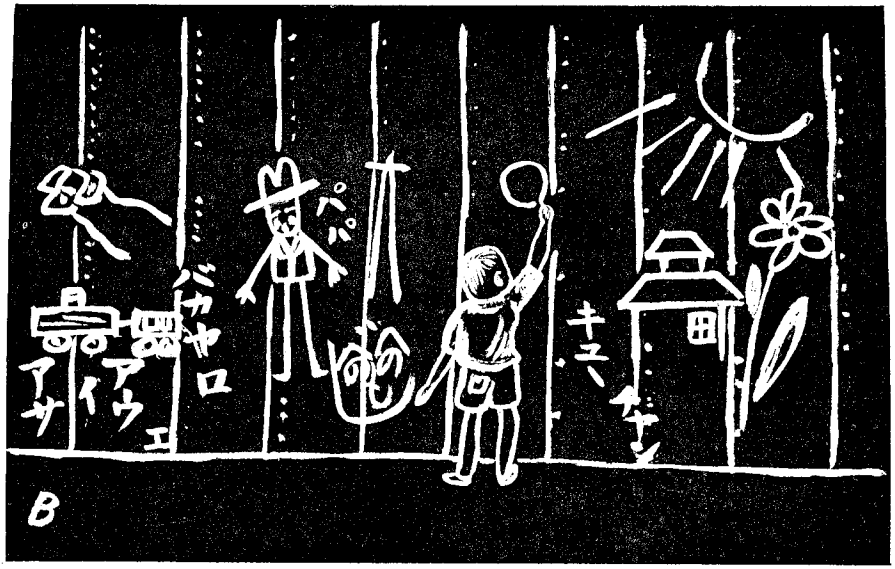
僕はラクガキが大好だ
黒い『へい』をみると
何かを書いてみたくなる
僕はいつでも、ハクボクを
ポッケにいれておくんだ

僕はラクガキが大好だ
お父さんの顔もかいた
僕の犬もかいた
それからキューチャンも
ほんとに、おもしろい！

僕はラクガキが大好だ
黒い所に腕を一杯に広げて
高い所は背のびして
書くんだ、ぐーんと
背がのびるみたい
僕はラクガキが大好だ
早く大きくなって
もっと、上の方に書きたいナ
下の方は、すぐ場所が
なくなってしまうから

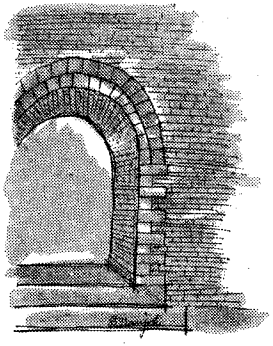
僕はラクガキが大好だ
だけどパパやママは
書いてはいけないとゆう
どうしていけないのかな
僕、わからないや？

僕はラクガキが大好だ
だけど、「へい」に書くのは止めたヨ
ママが大きな黒板を



子供の大好きな落書、ただ叱らずに何故してはいけないと教えてあげましょう。落書に限らず他のことでも同じですネ、祈りをしているのにさわいでいる子供、本をやぶいている子供……決して頭から叱らない様に！
先生方の忍耐と、上手に説明してあげることが必要です。

プレゼントしてくれたので
そして、ママがこう云ったの
『『へい』は僕のお家を守ってくれるでしょう。
坊やが寝っている夜の間でも
じーと立ったままネ
だから！　とっても、ひるまは、ねむいのヨ
そーと静かにしておいてあげましょうヨ
『へい』にラクガキすると
ねむいのに誰だろう？
私の顔をくすぐるのは？
いやだナア……　って泣いているかも知れなくてヨ
僕だって寝っている時に
くすぐられるのはいやでしょう。ネ！」
ほんとうに僕だっていやだヨ
寝っているのにくすぐられるのなんて
『へい』さん！　ごめんなさい
僕、もう、くすぐらないヨ



日曜学校ガイド

8月用

子供の日曜学校

子供の日曜学校は大人の日曜学校と独立に存在するのではなくいつも大人の日曜学校会長会の管理下にある（第二副会長が主たる関係者）。又子供の日曜学校には**会長会はなく、責任者一人**だけですから御注意を！

目的

1　子供に特に必要なお友達とのつき合いしつけなど立派な社会人となるための基礎的な事柄を教える。（秩序を守ったり、お友達に迷惑をかけない精神など……）

2　礼拝行事によって天父なる神に礼拝する気持を養う。

3　クラスで福音を面白く効果的に教えることにより小さいときから主の戒めを守ろうという精神を育てる。

三つ児の魂百まで

役員教師

大人の日曜学校会長会、責任者、指揮者、オルガニスト、先生、書記、（会長会以外は女性が望ましい）

司会

司会は責任者が行うべきで欠席のときは先生がいつも代れるよう用意しておく。順序は次の通りが望ましい。

1　前奏　三分前より

2　大人の日曜学校会長会の挨拶

特に第二副会長で神権者が望ましく、神権会が同時刻のときは開会、閉会行事のみ出席して管理するのが良い、子供に分るような言葉を用いることが必要、三十秒位適当。

3　司会者の挨拶　三十秒

4　開会の歌　二分

5　祈り　一分

子供が一人でやれるよう訓練して下さい。先生がついて先生のいう通りに祈らせるのは早く止めたいものです。

6　聖句朗読　口語で一分

月の始めに司会者はこの聖句の意味を説明し一ヶ月同じ聖句を一緒に読むのが良い。そのために皆が新約聖書をもつか、聖句を黒板か大きな紙に書いておきそれを読ませるかするのが望ましい。

7　練習の歌　七分

8　二分半の話　五分

これは子供にとって非常に難しい場合と易しい場合がある。即ち適当な題が与えられ、クラスで先生より訓練を受ければ二分半は子供にとってとても楽しい時間のはずです。皆

の前で落着いて話をするという経験は立派な社会人になるために実に大切なことです。

9　分級　福音の勉強、活動、四十五分

一方的に先生がお話をすればすぐ生徒はあきていたずらをするでしょう。子供の正直な反応をいつも注意深く観察して面白くて楽しい勉強にして下さい。勉強と活動をはっきりと区別してやるよりも、勉強で学んだことを子供達が自分自身で理解していく活動が優れております。とにかく子供達が来て良かった来週も喜んで来ようと言わせる楽しく活動的なクラスにして下さい。くれぐれも言葉は注意してやさしく話しかけて下さい。

10　復級、発表　一分

11　閉会の歌　二分

12　閉会の祈り　一分

全部で一時間十五分で、できるだけ大人の日曜学校と同時刻が望ましい。部屋の関係で難しいときは大人の日曜学校が始まる前に子供の日曜学校が終るように計画してもよい。時々両親達を招待して見学してもらうのも良いでしょう。又祭日などは一緒にピクニックに行ったり映画をみたりなどして先生と生徒の交流をはかるのが望ましい。歌に「子等は歌う」（百円）より選んで下さい。時には讃美歌より子供向きの易しい歌を使うのもよいでしょう。

福音の研究クラス

子供の日曜学校

初級（七才・小学校二年まで）

テキスト　聖書物語と活動、霊的成長Ⅰ・Ⅱの三冊を三年交替で教える。

中級（八～九才）

テキスト　宗教と生活Ⅰ・Ⅱ二冊を二年交替で使う。

上級（十～十一才）

テキスト　聖書物語　モルモン経物語　二冊を二年交替で使う。

以上のクラスが標準ですが、支部によって適当に変えてもよいです。例えば人数が十人以下の場合には中級と上級を併せて初級と二クラスだけでもよいし。生徒の構成が固っているときはその年だけのクラスを一つ設けるなどなど……

大人の日曜学校

Aクラス（十二～十四才中学生）

テキスト　聖典中の指導者、キリストの生涯、我等の標準聖典を三年交替で使う。

Bクラス（十五～十七才）

テキスト　福音の実践　古代アメリカの生活、古代の使徒を三年交替で使う。

Cクラス（十八才以上、求道者、新しい会員（ほぼ一年未満）

テキスト　福音の紹介を毎年使う。

Dクラス（十八才以上系図のクラス）

テキスト　シオン山の救い手、家族の昇栄家督権の祝福、その他伝道部の系図の委員会の指示によるテキストを交替に使う。

Eクラス（十八才以上教義の研究）

これは他のクラスと違って新しいテキストを使用すべきで一九六三年度には「奇しき業」上、六四年度はその下、六五年度は「救いの教義」（ジョセフ・フィールデングスミス十二使徒会長著）を計画中で着々準備致しております。

これらのクラスも子供の日曜学校と同じように支部によって事情により適当に変えてよろしいですが、なるべくこれに沿うよう努力して下さい。なお同じテキストを何年か交替で使いますが同一生徒が同じテキストを二回学ぶことがないよう配慮致しております（落第がありませんから?）、又時期がくれば新しいものも考えますがここ当分はこの線でいきます。

テクニック講座Ⅲ
クラスの環境

学ぶためにはその環境が非常に大切です。残念ながらこの伝道部では半分以上は教会堂はなく間借りをしており、又真に礼拝するように設計された教会堂は一つもありません。（今年中に献納されるのは東京で二つあるが）。その意味で完全なレッスンを行うのも非常に難しいと思われるが、できるだけのことは整備してよりよいレッスンのために準備しようではありませんか。よりよいクラスの環境のため次のことに注意しましょう。これらのことは日曜学校が始まる前に既に行われていなければなりません。

1　腰かけ

間借りをしている場合や予算の関係などで簡単に座り心地の良い腰かけに変えることができませんが座布団を敷くとかして最良の状態にしていくのが望ましい。座席は討論が大部分のときは円にするとか、四角にするとかしていろいろな工夫をこらすと案外楽しいものである。

2　室内の清潔

不潔な室内では福音の勉強はできないと言っても過言ではない。時には掃いたりふいたりしなければならないときもあるので（間借りのときなど）かなり早目に来て清潔なクラスを作らなければならない。不潔な所では伝染病にかかるおそれもあるのでくれぐれも注意することが必要である。

3　暖冷房と換気

生徒が寒さのためや暑さのために気が散っているときはいくら熱心に福音を解いても耳に入らないものである。ストーブや扇風機をできるだけ使うようにして丁度快適な温度にするように気を付けなければならない。よくクラスに分れてからストーブをもってきて火をたいたりする先生がいるが生徒がクラスにくるまでには、その準備は完了させておかなければならない。ストーブの際は火気にいつも気を付けストーブの傍にはいつも満水のバケツを用意しておく必要がある。又換気をよくしていないと中毒を起すことがあるから注意しなければならない。

4　照　明

暗い所では眼を痛めたり近眼にさせてしまったりするから気を付ける。特に本を読ませるときはその人は十分明るい所におる場合に限る。

5　室内装飾

歴代大管長の絵やイエス様のいろいろな絵古代のいろいろなエピソードを語る絵や興味ある掲示板などはクラスの中をなごやかな敬虔な雰囲気に包みます。又それらは視覚教材にも用いられるから便利です。又外が余り見え過ぎて都合が悪いときはカーテンを下げて外界と遮断するも一方法です。

クイズルーム解答

(1)出エジプト　二十
(2)モーセの律法とは生活上のいろいろな具体的なとりきめであってその中には〝目には目を〟〝幕屋について〟などなどが規定されている――出エジプト記二十一章以後、レビ記参照。
(3)ルツ、エステル
(4)エレミヤ
(5)ネヘミヤ
(6)イザヤ、二九　エゼキエル、三七
(7)イザヤ、十一、六五
(8)エステル
(9)ヨブ
(10)列王紀略上
(11)創世、一、二七
(12)士師。十三、十五

新約聖書の大切な聖句

バプテスマのヨハネ	マタイ 3：1	**御使いたちの讃美**	ルカ **2：14**
山上の教え	〃 **5**	伝道の際の心構え	〃 10：1
地の塩たれ	〃 5：13	良きサマリヤ人のたとえ	〃 10：30
神の国と義を求めよ	〃 **6：24**	**富める愚か者のたとえ**	〃 **12：16**
求めよ、さらば与えられん	〃 **7：7**	自分の十字架を負う	〃 14：27
黄金律してもらいたいこと	〃 **7：12**	**放蕩息子のたとえ**	〃 **15：11**
岩の上に立てられた家	〃 7：24	富める人とラザロ	〃 16：19
十二使徒の派遣	〃 10：2	**祈りの大切さと裁判官のたとえ**	〃 **18：1**
重荷を負う者我に来れ	〃 **11：28**	カイザルのものはカイザルへ	〃 20：25
天国のたとえ	〃 13	イエス復活して弟子たちに現る	〃 24：36
山上の変貌	〃 **17：1**		
99匹と1匹の羊	〃 18：12	始めに言あり（D．C93：6）	ヨハネ 1：11
赦しの精神	〃 18：21	カナの奇跡	〃 2：1
イエス、自分の受難を予言	〃 20：18	**新しく生れずば神の国に入れず**	〃 **3：3**
大いなる戒、神と隣人を愛すること	〃 22：37	ひとり子を世に与え給う……	〃 **3：16**
パリサイ人の偽善を叱る	〃 23：23	わたしの水はかれることはない	〃 4：14
末日の世相を予言	〃 **24：**	第1、第2の復活について	〃 5：29
福音全世界に宣べられる	〃 24：14	**真理は自由を与える**	〃 **8：32**
十人の童女のたとえ	〃 25：1	**他の羊も導く（ニーファイ第二書15：21）**	〃 **10：16**
タレントのたとえ	〃 25：14	わたしはよみがえりであり…	〃 11：25
最後の晩さん	〃 **26：26**	互いに相愛すよう	〃 13：34
イエスの復活	〃 28：8	来世の住処は沢山ある	〃 14：1
		我は道なり真なり……	〃 **14：16**
ペテロの親癒される	マルコ 1：29	戒を守る者は我を愛す者	〃 14：21
自分の命は全世界より勝る	〃 **8：35**	**友のために命を捨てること**	〃 **15：13**
金持が神の国に入ることの難しさ	〃 10：23	**永遠の生命とは**	〃 **17：3**
クリスチャンはキリストの名により		一つ心になって協力すること	〃 17：22
すべての人に憎まれる	〃 13：13	イエス、マグダラのマリヤに現る	〃 20：11
神権の力の偉大さ	〃 **16：15**	イエス、トマスに現る	〃 20：27

D．Cは「教義と聖約」です

「福音の目的」

イエス・キリストの福音の目的とするところは、キリストの教会の会員たちに「日の栄の王国」へ昇る備えをさせることであります。「日の栄の王国」とは父なる神の在したもうところであります。そしてこの「日の栄の王国」こそ、イエスがかって「まず神の国と神の義とを求めなさい」（マタイ伝六〇三十三参照）と私たちに命令なさったときに考えておいでになったその「神の国」であります。この「神の国」の律法と福音の原則に従うことによって始めて「神の国」にある数々の祝福が与えられます。「教義と聖約」の第七十六章を注意してしらべてみると、主なる神が明らかになさったいろいろの要求のきびしい性格がよくわかります。「日の栄の王国の光栄」を得ようとする私たち一人一人は「イエスの証しを受け入れ」て「その御名を信じて」いなくてはなりません。「イエスを信ずる」ということは、ただ単にイエスが救い主であると認めるというだけではなくて、イエスが神であることと人類の救い主としてこの世に来りたもうたことを絶対に固く信ずることであります。私たちは「キリストの葬られたもうた様に似せて水のバプテスマを受け」その後「按手聖任をされて聖霊を授ける権能を結び固められた神権者の按手により聖霊を授けられて」いるはずであります。

「日の栄の王国」に昇る候補者たちは「信仰によってうち勝ち、約束の聖きみたまによって結び固められた」人たちであります。私たちの努力の要点はすなわち「信仰によってうち勝つ」ことであります。信仰によって私たちはあらゆるものを征服し、信仰によって私たちは自分の罪から清められ、信仰によって私たちは「日の栄の王国」に昇るに足る者であることを証明するのであります。私たちのためにとり行われる福音の儀式の一つ一つは、私たちが福音の律法に忠実であることを前提として約束を結び固められるのであります。私たちが律法に従うときに、私たちは教々の祝福を受ける者となります。信仰によってうち勝つとは、私たちが自分のもっている一つ一つの弱点と悪習と罪悪とを完全に征服することであります。そうすることによって、私たちは福音に属する一つ一つの原則と誓約と律法に従って生きるのであります。妥協をする人はあらゆるものを征服することができません。

第一の誡命は、勢力をつくし、心をつくし、力をつくして主を愛することであります。主は私たちが心から主を愛しているかどうかをはかる手がかりをお与えになりました「もしもあなたが私を愛するなら、あなたは私の誡命を守るにちがいない。」罪深い行いにふけっていても心さえ清ければそれでよろしいという自由主義的哲学は何の根拠もないものであります。この説を受け入れている人々は、自由を得る特権と「日の栄の王国」に住まうことのできる権利を放棄するものであります。

「日の栄の王国」の祝福を求める人々が片時も忘れてはならないことをいくつか挙げますと。それは安息日を守ること、什分の一を完全に納めること、正直であること、虚栄にうち勝つこと、欲情を征服すること、貧しい人々に持物を分け与えること、自分の身を清く保つこと、出席する義務のある諸集会にいつも出席すること、知恵の言葉を守ること、神殿で結婚をすること、先祖の探求を行うこと、先祖のために身代りの儀式を完遂しまた宣教師となって働らくこと、などであります。

もしも私たちが以上の要求に従って生活をするならば、私たちは来世のための準備に一歩を踏み出したのであります。

もしも落胆するようなことがあるなら、使徒パウロの言葉を思い出して下さい。

「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」

（コリント前書二九〇参照）

MIA リーダー

教師養成用レッスン

良く教え、指導する為の六つの基本的標準

第三課（四月号からの続き）

第三段階　まず目標をしつかりと持つてレッスンを始めなさい。生徒たちがあなたのクラスにやつて来る時、彼らの心はいろいろな処に在る。各自はあなたとは違つた環境、世界に住んでいるのである。クラスでのあなたの最初の仕事は—教室はすでに理想的に整頓されているとして—そのクラスの注意と関心をかち得る事である。注意をひき起すのに幾つかの違つた方法がある。たとえば、何か物を見せたり、大げさな動作で振舞ったり、彼らの前に絵画を置たり、或いは黒板に文字や聖句、質問等を書いてもよい。また、地図や絵を描いたり、クラスを二つに分けてみるのもよい。その他、彼らが静かになる迄、一言も喋らずに立っているのも効果的である。

あなたの選んだどんな始め方にしろ、それがその日の本題に直接導かれるようにする事は大切である。あなたの生徒たちの心をとんでもない方向に導いてしまう様な多くの行き過ぎた始め方がある。（ある日曜学校の指導者は導厳さを確保する為に、説教壇に模型の信号機を立てたそうである。子供たちが五月蠅いと赤いシゲナルを出し、静かになると青いのを出した。子供たちは大変面白がって信号の色を変えようといろいろな動作をした。時々、説教者は聖餐会で、話しの出だしに滑稽な話しをするが、これは悪趣味であって、会の精神と目的から逸脱し、それが例え手際が良かったとしても、聴衆はその会の間中、その話しの事を考え続けるかも知れない。

第四段階　次の仕事は目的に到達する為に論理的、或いは興味ある経過になるようにあなたの考えの本筋を整理する事である。これには自由な想像力の活躍を必要とする。それはちょうど、建築家が要求された建物の素描を為すのと同じである。時には、考えは質問形式で表わされるかも知れない。毎週々々、変化に富んだものがより高度に望まれてくる。あなたの考えを左側の行に書き連ねなさい。その右の行に説明、註釈、質問等を並べて書きなさい。もし充分でないなら、もっと読み、考え、祈りを棒げなさい。

考え	説明、註釈、質問
1……	……
2……	……

3……　……

人間は複雑さから身を守ろうとする。出来るだけ少ない、出来るだけ良い考え、説明、質問はこれらを効果的にするのに必要である。教える事はウインドウ飾りのようである。その目的は人をひきつけ、訴え、物の印象を欲しいもの、美しいものとさせる事で、何でもごたごたと詰め込む事ではない。

第五段階　レッスンを頭に浮かべよう。始まりの時と同じように結論は変化に富んだ、ありきたりのものでないようにしよう。或るレッスンは総論となり、また、他のものは豊富な個人的な経験を語り、或いは証詞を述べ、不意試験の形でレッスンの効果を見る事によって閉じても良い。

人間は余りにも道徳的な理屈ぽい話や解り切った事を何度も骨折って繰り返す事により、考えたり感じたりする権利を奪うような行為から身を守ろうとする。ヨナやイエスが喩え話で示したように、想像力を必要とするように物事に当らせない。もし終り際がうまく行けば、学生たちは彼らの生活にレッスンを適用しようとする筈である。

レッスンの計画の一例（ローレルのクラス）

結びとして、レッスンの一例をざっと掲げてその計画法を前述した段階毎に示す。

一週間の或る日

第一段階

手当り次第に調べる。

そのレッスンを読む。

考え、集めた資料、控えなどを使う。白紙に全ての考え方を列挙する。

考え	説明	聖句	質問
現在の混乱	料理・TV	ルカ伝6・14章 出エジプト記20章	あなたはそれが何であるかをどのように知りますか
矛盾	集まり	申命記5章	悪いか
安息日の目的	日曜日のデート スポーツ	教義と聖約59章	それらは喜びを与えてくれるか
為すべき事	小林兄弟の経験		

第二段階

目標を見出す事レッスンの中から意図した目標を考えてみなさい。繰り返しなさい。更に発展させ得るかどうかみなさい。最後には次の目標に達するでしょう。

目標＝安息日を守る事は天に在す父なる神を崇める為の喜びである一つの方法であると少女達に感じさせる助けとなる事、

第三段階　良い始まり

黒板の処へ行き、次のように書きなさい。

安息日

為すべき事	為してはいけない事 ?
1 教会へ行く	1 ショーを見る　1 童話を読む
2 病人を見舞う	2 ダンスをする　2 勉強する
3 聖書を読む	3 ……　3 テレビを見る

クラスの少女たちに安息日に為して良い事と悪い事とを聞いてみなさい。それらを何か適当な表にしてみるとよい。もしクラスの誰かが異議を唱えたり、困惑を示すようなら、その箇所に「?」を付けて別の表を作りなさい。

第四段階　主な考えの整理

主な考え　説明、注釈、聖句など

I 困惑

安息日に何を為すべきかを何故解らないのか。

A 時代は移り変っていく

新しい事情も生まれる

TVなど

B 問題はその問題を討論することで解決されるのでなく、もっと根本的なものに迄堀り下げることで解決される。

A この問題に関する聖句

出エジプト記20章8〜11節申命記5章12〜15節

II 安息日の目的

主は何故に戒律を与え、従うべきかを強いられ

給うたか。
（教師は安息日の目的に関する生徒の考えを黒板に表にしてみなさい。）

モーセの戒律にある安息日の根本の目的はなんであるが、
B主イエスは安息日をどうお考えであったか。主はその日になにをためされたか。
ルカ伝6章1～12節
ルカ伝14章1～6節
マルコ伝2章23～28節
Cイザヤ書58章を読みなさい。

Ⅲ問題の解決

結論＝安息日を守る最良の方法はその目的をなし遂げることである。故に、次の質問に答えてみよう。

1 TVを見るのは。
2 勉強するのは。
3 ボール遊びに公園へ行くのは。
4 デートをするのは。

結　論

今迄述べた方法を使えば、姉妹たちは最善の判断を下すことが出来るであろう。何故なら、どう判断したら良いのかというポイントを知ったからである。更に言わせて頂ければ、今までの基本的解説は如何なる場合に直面しても、何時も役立つであろう。教師は自分の経験と実例を通して安息日に対し、積極的な気持ちを懐かせるよう務めなさい。最後の質問は多分次のようなものでしょう。「姉妹たちよ、安息日を聖く保つよう覚えていれば、どんなに素晴しい、満足すべき経験が得られるだろうか。」

教師に対する提案

目的―解り易く、効果的に教えられるような方法で、レッスンをどう計画したら良いかの手助けとなる。

レッスンの進展方法

Ⅰ一般の基礎的準備

A今年最も効果を上げた教師となるためにはどう準備したら良いか。
1 学習の全過程を知る。
2 教えようとする主題を知る。
3 何か綴じ込みを使って教えた内容をしっかり把握しておく。
4 人を導くために祈り、みたまの導きを求めなさい。

Ⅱ各レッスンの準備

どんな段階が含まれているか。
1 ブレインストーミング＝レッスンを読む前か、読んでいる最中、頭に浮んできた考えや説明を書き留めておく。
2 あなたの目標を書いて表わしてみなさい
3 なにか良い始め方を考えて見つけ出しなさい。
4 紙片の余白に、目標に到達しようとするための考え方や、適当な説明、観点、質問或いはなにかそれとは逆の考えを並べてみなさい。
5 良い結論を出しなさい。生徒たちを納得させ、手助けとなる結論は日々の生活に役立つものである。

Ⅲレッスンの見本

一つの見本がこの課の中で与えられています。クラスの者にそれをもう一度見直すように促して下さい。各先生は指導者会にこれから教えようするレッスンの計画を携えて出席して頂き度い。二、三の計画を集まった人たちに見せてやると良い。各自、気のきいた建設的な批評をし合いなさい。また、良い計画は他にも沢山あることを心に留めておくべきである。

（第三課終り）　佐藤囊二記

八月二日「あなたの趣味」

エンサイン・ローレル

この夜はエンサインとローレルが合同でク

ラスを開きます。そして前からクラスの人々に各自の趣味を広く皆に紹介するように準備を進めさせましょう。人には皆それぞれに趣味があるもので、それをクラスの人々の前に発表する機会があったらと思っていたでしょう。同じ趣味を持ってる人たちは、新しい友情を作ることも出来ますし、他人の趣味を見て興味をおこす人もあることでしょう。クラス・リーダーは効果的にプログラムを組み、一人一人が準備し、発表することに助けを与えましょう。またこの夜各自が友人を一人づつ招待するように計画すると良いでしょう。

新しくエンサインのクラスに招待されて訪れた友人は、同じ年代の人々の趣味を見て興味を持ち、且つ、エンサイン・ローレルのクラスにも興味を持ったことでしょう。そして、来週もやって来たいと思うことでしょう。

八月九日「あなた自身で選びなさい」

エンサイン・ローレル

エンサイン・ローレルの手引き、二百九十頁〜三百四頁参照。

この中に提案されているパーティーを計画しても良いし、また地方にあっては人数の都合で、もっとも違ったパーティーを計画しても良いと思います。夏の一夜を楽しいパーティを開きましょう。（なおこの夜は、グループ活動に参加しなくても良いわけです。エンサイン・ローレルのみ、一般活動の時間として閉会迄、パーティを続けて下さい。）　栄子記

八月十六日「スポーツの夜」

エンサイン・ローレル

この晩は、エンサイン・ローレルのみ、八時迄スポーツの夜として計画を立てて下さい。時間的に四十分位しかありませんから、大きなスポーツは出来ないでしょう。自分の教会堂を持ち、卓球台のあるところなど、卓球大会を持つのも良いでしょう。またゲームの中でスポーツのようなものを選んでやっても良いと思います。クラス・リーダーは、クラスの中から四名の委員を選んで計画と準備を立てていただくと良いでしょう。　栄子記

八月二十三日「クラスに月桂冠を授ける」

エンサイン・ローレル

エンサイン・ローレルの手引き、二百二十頁参照。

本伝道部には、まだアダパールのシステムがありませんし、月桂冠を授けると言うことも適用されて居りません。そして、それらにかわる何らかの〝賞〟もありませんので、クラス・リーダーの方は、手引きを良く読みましたら、応用出来る計画のみ使用して下さい。

例えば、その夜は、ローレルの、クラスの中でこの一年間に良く出席し、忠実な会員として、色々なプログラムに参加した人々を、クラスの皆の前に紹介し、その行為をほめたたえ、感謝することです。また提案されているプログラムの中にあるように、伝道部、地方部、地区、支部の指導者を来賓として招待し、若いローレルの人々の前に意義ある話を頼んだり、また、ローレルの誓いや、目的について話をする人を選んだりしてプログラムを作って下さい。提案されているように軽飲食を出してもさしつかえありません。この夜、YWMIA会長は必ずローレルのクラスに出席して下さい。クラス・リーダーであるYWMIA副会長が司会をすると良いでしょう。時間は八時迄ですから、プログラムによっては、小さなゲームを入れることも出来ると思います。

八月三十日「約束しましょう」一般活動

この日をもって、一九六一年度MIAも終

ることになります。この一年間をふりかえって

貴方のＭＩＡは進歩しましたか？

貴方のＭＩＡに新しい友たちがふえましたか？

貴方のＭＩＡは提案されたプログラムをどの位行うことが出来ましたか？

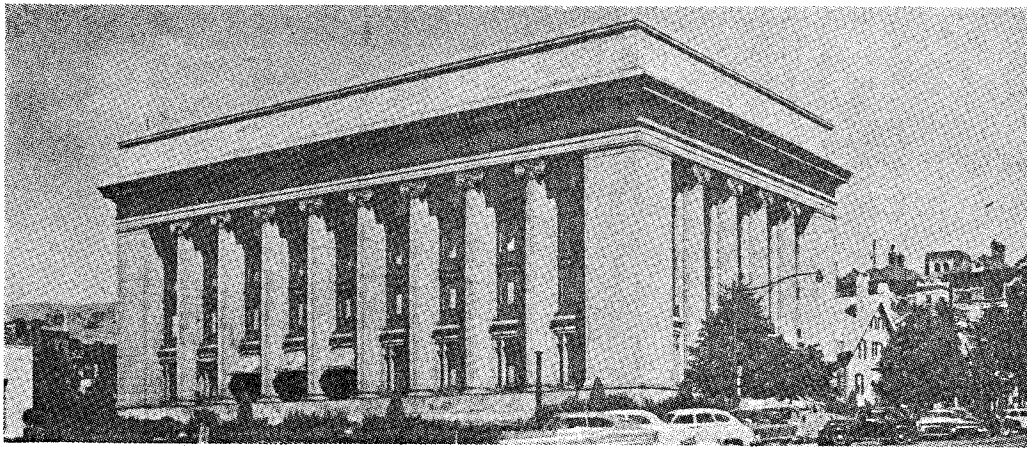
会長および役員の皆様はきっと色々なことを考え、さまざまな想い出の中に幾つかの反省も持っていらっしやることでしょう。この一年間を通して一つの役職を無事に果された役員の皆様に私は心から感謝して居ります。自分の仕事を一年間続けて行ってみて、はじめて、一年中のＭＩＡのプログムを知ることも出来ますし、また来年は、こういう所を気をつけようと、いう自分の欠点も見出すことが出来るわけです。途中から役員の変更があり、現在ＭＩＡの役員教師をやっていらっしやる方々は、どうぞ貴方の今の仕事をこれから先、一年間続けて努力し、果されることを心よりお願い致します。主はきっと貴方が努力される時に、すべての障害を取り除き給うことを私は知って居ります。今迄のＭＩＡに対する貴方の努力を協力を心より感謝致して居ります。

さて、ＭＩＡの一番最後のこの日は、一つのパーティになります。この日、伝道部、地方部、地区、支部の指導者、役員を招待しましょう。またこの一年間に地方部や地区や各支部同志で行った競技会のトロフィーも会場に展示すると良いでしょう。そして、一年間に、支部のＭＩＡに努力し、協力、活発に活動した人々を皆の前に紹介すると良いでしょう。またこの日のことは支部内によく宣伝し、支部のすべての会員に招待状を出しましょう。ポスターはＭＩＡの日だけはるのでなく、支部の人々がよく目につく所に、他の集会の時にもはっておくと良いでしょう。また支部長会に依頼して、各集会の時の発表事項の中に入れて下さるように伝えましょう。装飾や、観迎は委員を選んで頼むと良いでしょう。その支部のＭＩＡ会長、会役員の相談でダンス・パーティーにしても良いし、ゲームの会にしても良いわけです。唯、一つのことを忘れないで下い。この夜のテーマは、「約束しましょう」と言うことで、これは、九月から始まる新しい年度のＭＩＡにやって来ることを約束すると言うことです。ですから、各自が新しい友人をつれて、このパーティーに出席するように宣伝して下さい。ＭＩＡに始めてやって来た友たちがＭＩＡに興味を持ち、九月から、毎週やって来ることを約束するように楽しい会にしましょう。予算のある支部は、軽飲食を出しても良いと思います。

「西中央地方部大会に出席して」

六月二日、三日に行われた西中央地方部大会に機会を得て出席致しました。神戸、御影公会堂に私が着きましたのが二日の二時半頃だったと思います。予定されましたＭＩＡ会場には名古屋支部の方々がもう見えておられ、その夜の劇の準備をされて居られました。六時半から開かれたＭＩＡ大会には沢山の兄弟、姉妹、お友だちが遠くは九州から近くは地元三ノ宮から見えられ、いつもお目にかかりたいと思って居りました方々と親しくお逢い出来、本当に嬉しく思いました。その夜のプログラムは、各支部が分担でＭＩＡ活動を皆に紹介して下さいました、各支部で良く準備し、計画されましたので、とっても良い大会でした。唯、東中央地方部の大会等とくらべますと物静かな態度が関西らしい雰囲気だと感じました。翌日は神権会、扶助協会、一般大会の後、特に計画されました役員会に出席し、各支部のＭＩＡ役員の方々とお目にかかれ、本当に楽しい大会だったと思います熱心に努力されている兄弟、姉妹を見て力強く感じて帰京致しました。

ジョセフ・フィールディング・スミス著



末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋　31

第三部　オハイオおよびミズーリ時代

第十九章　ジャクソン郡からの追放

（千八百三十三年）

二、ジャクソン郡に於て暴徒の暴行事件発生する（つずき）。

彼らは市民たちから急速に支持を得て、ついに州内から末日聖徒を追放するまでになった。フィニス・エウィング牧師は「モルモン教徒は人類共同の敵である」という風説を公けに人々の間にひろめ、一方ピクスレー牧師は東部地方で発行した宗教紙の間に虚偽を流布させ、またジャクソン郡にあるわが教会を破壊するためにインディヤンの間にも自己の勢力を悪用した。

ほとんどすべての末日聖徒は東部諸州の出身であったが、その一方ミズーリの人々は南部出身であった。ミズーリの人々は、将来モルモン教徒が数を増して今自分たちが持っている政治上の主権をとってしまうことをおそれた。その当時に於てさえも奴隷問題はまったく激烈であって、ミズーリの人々はその州を奴隷所有者の支配下にとどめておこうと決意をしていた。しかしながら、モルモン教徒が勤勉でありまたその信仰が彼らと異っていたから、モルモン教徒に対する憎しみはとりわけ極端であった。モルモン教徒の中にも適切な思慮分別と知恵とを示さなかった者もあった。というのは、その者たちが主は彼らのためにその土地を永久に嗣業として与えたもうた、たとえ彼らがその土地を買わなくてはならなくともやがてシオンの市がそこに建てられ、そこへは忠実な者以外に何人も入ることを許されぬにちがいないと公然述べていたからである。このよう

な言い方はミズーリの人々を激怒するまで興奮させた。彼らはもともと当教会の教義を憎んでいたので、その土地が結局自分らから取られてしまうと言われることは火に油を注ぐと同じであったからである。

すでに千八百三十二年の春、暴徒たちは暴力に訴えた。夜半人の寝しずまったとき、聖徒たちの住んでいる多くの家の窓はこわされ、そのほか多くの損害が敵の手によって与えられた。この敵はもちろん暗にまぎれてこれらの事をしたのであるが、これは将来起る悲しみの序の口にすぎなかった。

三、暴徒の会議。 千八百三十三年七月二十日、末日聖徒に反対する全ミズーリ人の会議がインデペンデンスの裁判所の中で召集された。この時、四百人から五百人の人々が集ってリチャーヅ・シンプソンを議長に、サムエル・D・ルカスとジェー・H・フラワノイの二人を書記に選んだ。それから、彼らはひきつづき討議に入り、彼らの言によれば「できるならおだやかに」、「必要なら実力を用いて」当教会の会員をジャクソン郡から放逐する手段を討議した。しばらく協議してから、彼らは自分たちに加えられた「害悪」に対して「民法は保証を与える力がない」あるいはまた少くとも充分な力がないと結論した。これらの「害悪」は「何人も予見することができなかった」ので「従って法律には何らの規定もない」、それであすから「立法がのびるならば、その悪影響を救済することは不可能であろう」。こういうわけで、彼らは何百人という市民をその家庭から追い出すことを自ら引き受けなければならない、と。

「モルモン教徒」の流す「害悪」のいくつかは次のように言われた。すなわち、数々の奇蹟が行われ、また多くの病人が超自然的に医されたという宣言、天からの顕示を信ずることと彼らが神と神の天使らと言葉を交えたと信じていること、予言の賜と未知の言葉の賜とを持ちこれを行使すること、また「金銭その他の代償なしに嗣業を得るという期待に熱中していること」などである。しかし、彼らは「モルモン教徒」が神の誠命に従って、購入する以外の方法で土地を手に入れようとしたことはかつてないことをよく知っていた。それにもかかわらず、以上のような「罪」はすべて処罰されなくてはならない。何となれば、これらの「害悪」に反対する「自己保存と善良な社会と一般の風紀」の上から「モルモン教徒」は追放されなくてはならなかったからである。次のような条項が作成され満場一致を以て承認した上、当教会の長老たちに提出された。

四、暴徒の宣言。 (一)将来一人のモルモン教徒も当郡内に入植すべからず。(二)現在当郡に在る者共にして、適当なる時間内に当郡より立ちのく意向のあることを明確に誓う者には、物質上のぎせいをはらうことなく充分なる時間を得てその財産を売りはらい、またその事業を閉鎖するまで、さまたげを受けることなく滞在することを許す。(三)「スター」紙の編集者はただちにその事務所を閉鎖し、当郡に於ける印刷事業をやめよ。またモルモン派に属するあらゆるその他の店舗につきて、それの所有者はいかなる場合に於ても、この宣言の第二項にかかげられたる条件に厳密に従わざるべからず。もし従わざる時にはそれらの店舗を閉鎖するため、即座に有効なる処置をとるべし。(四)当郡に在るモルモンの指導者たちは各自の力を用いてその兄弟たちが遠方よりこれ以上当郡へ入植し来ることを防止せよ。また当郡に在るその兄弟たちには上記の要求に従うよう助言し忠告をせよ。(五)彼らの兄弟たちの中にて予言の賜および未知の言語

の賜を有して彼らの将来を告ぐる者どもは、以上の要求に従わざる者どもの中に含まる。

この提言を読んで承認を得た後、十二人から成る委員会が当教会の管理長老を訪問するために任命された。これらの十二人は「モルモン教徒が前述の要求に厳密に従うよう気をつけよ。またもしも彼らが拒絶したときには、前記の委員会は当郡の機関として、われわれの考えが完全に採用されるような手段を用いることは、その結果生ずるあらゆる事態と負うべきあらゆる責任とを考慮し尽した末に到達したわが方の確固不動の決意であることをまちがいなく彼らに告げよ」という指令を受けていた。以上が、暴徒らの発した神をおそれざる宣言であった。

五、敵の要求。 委員会がこの不正な要求に満ちた言つてを当教会の長老たちのところへ携えて行ってそれからその結果を報告するために会議は二時間の休憩を行った。要求を受けた教会の長老たちは当然この峻烈な条件をよく考えてみる時間を与えられたいと言った。彼らは自分たちの嗣業を受けるために主の命によってこの地へやって来た。将来新エルサレムという大都市が建つのはこの地であつた。彼らは自分らの財産を平和のうちに得んことを望み、これまで他人の特権に干渉したことはなかったから、自分らの権利を維持する資格があることは正しいと思っていた。長老たちは、この悪い条件についてよく考えてみるために三ケ月の猶予がほしいと言ったがことわられた。そこで十日間もらいたいと言ったところ、十五分で充分だと言われた。もしも即答をしないならば不利な報告が行われて、そのために重大な結果がすみやかに起ってくるであろう。以上の要求を拒絶することは、裁判所に違法な集会をしている者たちが明らかにねがっているところであった。彼らはその怒りを聖徒たちにはげしくぶちまける口実を求めていた。

六、委員会の報告。 委員会は戻ってきて報告した。彼らの議事録には次のように誌してある。「そこで、会衆は「スター」紙の印刷所を徹底的に破壊すること、また活字と印刷機とを手に収めることを満場一致で決定した」と。

悪人たちはそれから三日後にまた会合することを了解の上で、破壊の仕事に手をつけはじめた。彼らまた「シオンの門はモルモンの兄弟らの前に閉ざされてしまったこと、すなわちモルモンの兄弟らの利益は、彼らの真価を知ってそれを感謝する人々の中に留まっていることによって最もよく増進されるにちがいないことを、モルモンの兄弟らが遠く離れて知るように」自分らの考えを広く知らせる機会をのがさなかった。

七、暴徒らの復讐。 これら悪鬼のような人間たちは怒りたけって「イーヴニング・エンド・モーニングスター紙」の事務所へおしかけ、事務所を徹底的に破壊した。この事務所はウィリヤム・W・フェルプスの住んでいた家の一部であったが、フェルプス夫人とその子供たちは病気であった幼児と一しょに、破壊された家具の真中へ家の中からほうり出された。暴徒たちはさらに進んでギルバート・ホイットニー商会へおしかけ一層破壊をたくましうした。しかし、ギルバート長老が商品はその月の二十二日までにかならず荷造りをする、もう決して販売しないとうけ合ったので長老と店舗はそのままにしておき、一人一人の聖徒に暴行を加える方向へ注意を転じた。彼らはエドワード・カートリッジ監督とチャールス・アレンをとらえてその着衣をはぎとり、皮膚に焼けきずをつける酸をまぜ

ておいたタールを彼らに塗りたくってから鳥の羽毛を一面にくっつけた。このほかの兄弟たちはおそろしいわめき声と神をおそれぬ悪たいの最中に苦しめられた。一方そのほかの兄弟たちは彼らをとらえに来た者たちがこの「スポーツ」に夢中になって興奮しているとき、同じようなひどい目に逢うことから逃げ出すことができた。

八、暴徒再び集合。 千八百三十三年七月二十三日の朝、約五百人に及ぶ暴徒たちは無法の象徴である赤旗をかかげ、戦いに用いるあらゆる武器を持って再びインデペンデンスに近よってきた。彼らはすごい叫び声と神をおそれぬ悪たいを口にしながら町々に馬を走らせ教会の管理長老をさがし求めた。彼らは一人でもモルモンをつかまえたら、これに五十回から五百回の鞭をくわせ、その住家を粉砕するぞとおどし、ニグロたちを放って聖徒らの畑を荒らさせた。

九、教会のために身代(みがわり)を提供する。 ジョン・コリル、ジョン・ホイットマー、ウィリヤム・W・フェルプス、アルジャノン・S・ギルバート、エドワード・パートリッジおよびアイザック・モーレイ等の主だった長老は、何ら抵抗せずに教会のために自分たちを身代として提供した。長老たちはもしも自分たちの身をすてて暴徒らの怒りをしずめることができるなら、喜んで苦しみを受け、命さえもすてたのであった。ミズーリ人たちは神をおそれぬ悪たいをつきながら、もし聖徒たちがジャクソン郡を去らないなら男といわず女といわず子供といわず、一人のこらず鞭うち、命を失うまでも苦しめられるにちがいないと言った。

「モルモン教徒はこの郡から出て行かなくてはならぬ。然らざれば彼らすなわちモルモン教徒は死ななくてはならぬ」と暴徒らは言った。前記の兄弟たちは抵抗が無益であることを知って、聖徒らの生命を助け流血の惨事を避けるため、適当な期間内にジャクソン郡を去るという契約を暴徒たちと結んだ。

十、暴徒の強制的な契約。 暴徒が聖徒と結んだ強制的な契約は次の通りである。すなわち「オリヴァ・カウドリ、ウィリヤム・W・フェルプス、ウィリヤム・E・マクレリン、エドワード・パートリッジ、ライマン・ワイト、シメオン・カーター、ハーヴェイ・ウェドロックおよびピーター・ホイットマーとジョン・ホイットマーは千八百三十四年一月一日もしくはそれ以前に彼らの家族をジャクソン郡より立ちのかしむべし。彼らはその持てるあらゆる力を用いて他の全教会員を説き、一半を一月一日までにのこりを四月の一日までにできるかぎりすみやかに立ちのかしむべし。また彼らは全力を尽して他の兄弟たちがジャクソン郡に移り来ることを防止すべし。ジョン・コリルとアルジャノン・S・ギルバートの二人は事業をたたむための総代理人として後にのこることを許す。またギルバートは手もとにある商品を売ることを許さるといえども、これ以上買い入るることを許さず。「スター」紙は出版すべからず、また活字の組立てもなすべからず。エドワード・パートリッジとウィリヤム・W・フェルプスの二人はその家族を立ちのかしむべし。されど二人は教会の事務に結びをつけるために行き来することを許す」と。

暴徒らは、兄弟たちがこの時提出した条件を守るかぎり何ら暴力を用いないと誓約した。これに対して、長老たちの名前と暴徒の任命した第二番目の委員会の委員たちの名前が署名された。

伝道本部だより

バプテスマ　一九六二年四月

旭川
谷川礼子
萩原さち
竜神正美
佐藤広子
山本幾猛
吉井テイ子

広島
古本ユリ子
河野和
紫田検秀
川島志明
阪本善昭

京都
有本則子

名古屋
長谷川浩祥
磯村昌孝
平野勝之
小塚明彦
尾関育代
中村睦子
鈴木由子
鈴木敏代
坪田忠義

新潟
伊藤克利
金内勝郎
田部啓
渡辺アイ子
久保恭子
西村義次
鈴木典子

小樽
岡本実
色摩靖徳
輪島征子
渡辺忠則
浅利由美子
橋本静恵
稲垣正子
松田裕子
森田寧
矢部裕美
仙台
管原弘子
佐藤みよ子
渡部浩道

東京中央
浅沼澄子
橋本千栄子
石川洌子
上村陽子
児玉嘉彦
落合弥生
長田絢子
高縄ケンイチ
谷口幸子
吉田博子
吉田富英
高山秀二
星野清
金子きくえ
大橋正弘
織本信之
杉浦光男
田中孝一郎
東京西
伊藤幸明
小堀訓男
近藤和男
前田洋子
向井佳江

戸井修子
長谷川浩祥
磯村昌孝
小塚明彦
色摩靖徳
輪島征子
渡辺忠則
浅利由美子
橋本静恵
稲垣正子
松田裕子
森田寧
矢部裕美
管原弘子
佐藤みよ子
渡部浩道
西村義次
浅沼澄子

松岡喜久子
管原森男
上村陽子
山形
早坂征三
岩田佳子
佐藤幸子
高橋芙美子
長合八千代
原三枝子
東尚宏
神島みよ子
神島信夫
武蔵野政子
島田幸臣
荘山洋
高橋仁一
午坂昭子
渡辺美恵子
山口正枝
山崎政男
横溝昌機
韓国で三十一名

支部名	3月受浸者数 兄弟	姉妹	合計	合計 兄弟	姉妹	合計
旭川	0	1	1	3	16	19
室蘭	0	0	0	1	0	1
小樽	3	1	4	8	2	10
札幌	1	5	6	2	13	15
群馬	3	3	6	12	13	25
甲府	0	0	0	1	7	8
松本	0	0	0	0	5	6
新潟	3	1	4	7	9	16
仙台	1	2	3	5	7	12
東京中央	3	9	12	16	20	36
東京北	5	1	6	7	6	13
東京南	0	0	0	6	7	13
東京西	4	3	7	13	7	20
山形	1	3	4	3	8	11
横浜	7	6	13	10	11	21
阿倍野	0	0	0	2	10	12
福岡	0	0	0	9	12	21
広島	2	1	3	8	7	15
金沢	2	0	2	4	1	5
京都	0	1	1	3	8	11
名古屋	4	4	8	6	7	13
西ノ宮	1	3	4	3	4	7
岡町	0	0	0	2	9	11
岡山	0	0	0	0	6	6
三ノ宮	0	0	0	4	4	8
柳井	0	1	1	1	2	3
普天間	0	0	0	0	1	1
那覇	0	0	0	10	8	18
合計	40	45	85	145	210	355

EIGO KAIWA TEKISUTO
DAI SHICHI KA

1 **Tanaka:** Kamisama wa gojishin de chijō ni oide ni naranai kara, shinkensha wo kanri suru tame ni tareka wo hitsuyō to sareta nodesu.

2 **Chōrō:** Sōdesu. Kyōkai kara shito ga toriage rare tara, naze shinken ga naku naru deshō ka?

3 **Tanaka:** Shito ga inakereba, hoka no mono ni shinken wo ataeru kennō ga nai kara desu.

4 **Chōrō:** Konnichi demo, shito ga inakattara shinken wo ukerarenai nowa naze desuka?

5 **Tanaka:** Naze nara, shinkensha wo kanrishi, shinken wo ataeru hito ga taremo inai kara desu.
Konnichi shito nashi niwa shinken wa arimasen.

6 **Chōrō:** Sorewa hontō desu. Tanaka san, konnichi, makotono Iesu Kirisuto no Kyōkai to hokano kyōkai to dō chigau deshōka?

7 **Tanaka:** Kirisuto no kyōkai niwa Jūnishito ga ite, shinken ga aru to omoi masu.

8 **Chōrō:** Konnichi ni oitemo, Kirisuto kyōkai wa konoyō ni setsu ritsu sare nakereba narimasen. Sō omoi masenka, Tana ka san?

9 **Tanaka:** Hai, sō omoi masu.
Watakushi mo genzai no kyōkai wa konoyō de nakute wa naranai to omoi masu.
..... (V. 1)

10 **Chōrō:** Tanaka kyōdai, watakushi mo sō omoi masu. Watakushi wa Iesu Kirisuto ga, kyōkai wo konoyō ni shiyō to kangaete irasshatta koto ga hakkiri wakatte orimasu. Kirisuto ga jūjika ni kakerarete kara kono kyōkai ga dō nattaka kangaete mimashō. Shito tachi ga oshie wo

ENGLISH CONVERSATION TEXT

LESSON 7

1 **Tanaka:** He could not be here himself, so he needed someone to control it.

2 **Elder:** That is right. Suppose the apostles are taken from the Church, why is the priesthood Lost?

3 **Tanaka:** Without apostles, no one has permission to authorize it to be passed on.

4 **Elder:** Even today, why can't you have the priesthood without apostles?

5 **Tanaka:** Because there wouldn't be any one here to control it and pass it on.

There is no priesthood today without apostles.

6 **Elder:** That is true, Mr. Tanaka. How can you tell the difference, then, between the Church of Jesus Christ today and any other church?

7 **Tanaka:** The Church of Jesus Christ will have apostles in it and the priesthood.

8 **Elder:** Do you agree, Mr. Tanaka, that this is the way the Church of Jesus Christ must be established, even today?

9 **Tanaka:** Yes, I do.

I agree the Church must be like this tody.

..... (V. 1)

10 **Elder:** And I agree with you Brother Tanaka. I know this is the way Jesus intended his Church to be. Now, let us find out what happened to his Church after he was crucified. As the apostles went out to teach, one by one what happened to them also?

11 **Tanaka:** They were killed too.

12 **Elder:** And when the foundation was gone frome the Church, what happened to the rest of the building?

noberu tame ni dekaketa toki, karera wa hitori zutsu dō natta deshō ka?

11 **Tanaka:** Shito tachi mo korosare mashita.

12 **Chōrō:** Kyōkai no dodai ga nakunatta toki, sono tatemono wa dō natta deshōka?

13 **Tanaka:** Kuzure mashita.

14 **Chōrō:** Sono tōridesu. Kyōkai wa hontōni hōkai shimashita. (Kuzure mashita). Sono toki dōshite shinken ga naku nari mashita ka?

15 **Tanaka:** Shinken wo ataeru kennō wo motte iru hito ga taremo inaku natta kara desu.

16 **Chōrō:** Dōshite shinken no ushinawareta koto wa, sonna ni jūdai na dekigoto datta no deshō.

17 **Tanaka:** Hitobito ga Kami ni kawatte waza wo okonau kennō wo sono toki kara ushinatta kara desu.

18 **Chōrō:** Sono hito tachi ga hodokoshita baputesuma wa dō deshita ka?

19 **Tanaka:** Kamisama wa sorera wo omitome ni nari masen deshita. Katoriku ya Protestanto kyōkai niwa hontō no shito ga inai desune.

20 **Chōrō:** Dewa Kamisama no kennō wa dō deshita ka?

21 **Tanaka:** Soremo arimasen.

22 **Chōrō:** Makoto no Iesu Kirisuto no kyōkai to hikaku suru toki, hokano kyōkai wa dō desuka?

23 **Tanaka:** Sorera wa mina makoto no kyōkai dewa arimasen.

..... (V. 2)

13 **Tanaka:** It collapsed.

14 **Elder:** Exactly. The Church did collapase; and why was the priesthood lost at that time?

15 **Tanaka:** Because no one was left who had the right to pass it on.

16 **Elder:** Why was the loss of the priesthood such a serious thing?

17 **Tanaka:** Because men no longer had the authority to act for God.

18 **Elder:** How about their baptisms?

19 **Tahaka:** The lord would not recognze them. None of the Catholics or Protestants have apostles in their Churches.

20 **Elder:** What about the authority, then?

21 **Tanaka:** They don't have that either.

22 **Elder:** In comparison with the true Church of Jesus Christ then, what about these other Churches?

23 **Tanaka:** They are false.

..... (V. 2)

(Vocabulary 1.)

He (kamisama wa), here (koko, chikyū no ue ni), himself (jibun mizu kara), Suppose (=if), is lost (ushinawareru), has permission (wo yuru sareru), to authorize (kennō wo sazukeru), to pass on (tsutaeru), the difference (chigai wo), how can you tell (donoyōni yū koto ga dekiru ka), agree (dōi suru)

(Vocabulary 2.)

The foundation was gone (dodai ga naku natta); what happened (nani ga okotta), the rest of the building (tatemo no nokori no bubun, dodai igai no bubun), collapse (kuzureru), to pass it on (shinken wo tsutae ru), no longer (mohaya……nai), how about (dono yō de aru ka), what about (dōdearu ka), don't have that either (soremo motte inai), in comparison with (…to kurabete)

文芸　七月

○バラの花しおれて雨にうちぬれつつ　なおも咲かんと頭もたげ

○安息の聖なる一日早や終えて　夕げに思えばありがたきかな

○丸木橋渡りて途中迷いなば　渡れと神の声ぞするなり

長谷川桂子（岡町）

編集後記

▼七月十日、虎の門日消ホールで東中央地方部大会が開かれ、午前の一般大会が終り午後の一般大会に入る時、司会者の田中健治兄弟よりポール・C・アンドラス伝道部長の帰国が発表された。長年、日本を愛し、愛情を持って日本人モルモンのために偉大な仕事をなしとげられ、また「聖徒の道」にあっては意欲的な情熱をかたむけられて、ここまで「聖徒の道」が成長させられたこと心から感謝したい。

この上ますます進歩し発展することが、アンドラス伝道部長の御恩にむくいることと念じ、新伝道部長のもとに、アメリカの「エラ」誌にもおとらないものにしようと意欲をもやしているしだいです。アンドラス伝道部長、どうもありがとうございました。

▼六月に各地で大会が開かれましたが、早くその原稿を送って下さい。（小林）

正誤

テキスト「教師と生徒併用、モルモン経の読み方手引」の四十七頁下段(六)の(ロ)に誤りがありましたから左の通り訂正します。

(ロ)ニーファイの小版、これには紀元前約百三十年から紀元約五百七十年までのニーファイ人の宗教上の歴史がのっていました。紀元約五百七十年に至ってニーファイの小版の記録は絶えました。（誤）

(ロ)ニーファイの小版、これには**紀元前約五百七十年**から**紀元前約百三十年**までのニーファイ人の宗教上の歴史がのっていました。**紀元前約百三十年**に至ってニーファイの小版の記録は絶えました。（正）

月刊「聖徒の道」第六巻第七号
一九六二年七月一日発行
実価　一カ年　六〇〇円
半カ年　三〇〇円
一部　五十円
編集兼発行人　ポール・C・アンドラス
発行所　東京都港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経　上質革製合本……1100円

教義と聖約
高価なる真珠　合本……300円

モルモン経（新訳）……200円
信仰箇条の研究……330円
モルモンとは？（新版）……150円
完成への道……200円
初等協会教科書……150円
総合聖句の手引……150円
日本系図探究要覧……100円
アロン神権者用学科課程……150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
「モルモン経の読み方の手引」……200円
ナザレのイエス……100円
正しい日本史……100円
家督権の祝福……100円
扶助協会手引……50円
求道者教育法……120円

日曜学校用

宗教と生活Ⅱ……150円
回復された神の教会……100円
福音の実践……150円
聖典中の指導者……150円
我等の標準聖典……200円
古代の使徒……150円
福音の紹介……200円
シオン山の救い手たち……200円
教義と聖約の教え……200円

MIA用

生活の目標……150円
モルモン経研究ガイド……100円
MIA・エンサイン・ローレルの手引……150円
演説が上手になる法……150円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……400円
子等は歌う……100円
レクリエーション歌集……400円

……注文は各支部長へ……

支部所在地

北海道地方部

旭川　旭川市八条五丁目
MIA集会場　旭川公会堂

室蘭　室蘭市幸町八九
電話（七〇五四）

小樽　小樽市富岡町一ノ三五
電話（二一八二二四）

札幌　札幌市北二条西二四丁目

東中央地方部

群馬　高崎市並榎町二七五

甲府　甲府市山田町六三

松本　松本市同心町六一二

新潟　新潟市中大畑町五五七　金井方
電話（三一八六六〇）
集会場　中央会館　四階

仙台　仙台市光禅寺通り二八
電話（五一〇八九七）

東京中央　東京都渋谷区八幡通一ノ三四
電話（四〇八一三三〇七）

東京北　東京都豊島区高田本町二ノ一四八七
集会場　日曜学校　武蔵野ドレメ
MIA　徳川生物研究所

東京南　東京都大田区南千束町二四九
電話（七八二一六一三一）

東京西　東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇二一四〇一〇）

山形　山形市八日市八五〇

横浜　横浜市港北区篠原町二九
電話（四九一八七七二）

西中央地方部

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八

福岡　福岡市東薬院二ノ四〇

広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三

金沢　金沢市成瀬町二ノ四　野田方
集会場　農業センター

京都　京都市左京区松ケ崎桜木町一四

名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話（七三一四二一〇）

西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話（五一〇四二一）

岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八

岡山　岡山市七日市七八

三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話（八六一二六〇二）

柳井　山口県柳井市今市三九一

沖縄地方部

普天間　沖縄宜野湾村野嵩区三二八

那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

聖徒の道　一九五八年三月十七日　第三種郵便物認可　第六巻第七号
振替口座東京七六二二六番　発行人　ポール・C・アンドラス　編集人
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会　北部極東伝道部　東京都港区麻布広尾町十四